

# 仕様書

## 1. 件名

(長期継続契約) 令和7年度導入図書館情報システムハードウェア等賃貸借

## 2. 賃貸借期間

令和8年3月1日から令和13年2月28日まで(60ヶ月)

## 3. 納入期限

令和7年9月1日

## 4. 担当部課

予算執行課：市川市 情報管理部 情報管理課

業務担当課：市川市 教育委員会 教育振興部 図書館課

## 5. 目的

市川市(以下「賃借人」という。)では現在導入運用している図書館情報システムのハードウェア保守終了及び端末のOSのサポートの終了を迎えるにあたり、新しく図書館情報システムを安定稼働させるためのハードウェアと図書館情報システムパッケージを導入し、安定的な環境を継続的に維持し、円滑使用を目的とするための調達を行うものである。

なお、中央図書館設置のCTIサーバとテスト検証用サーバは本調達に含むが、図書館情報システム用の他のサーバは、賃借人が別途調達するため本調達には含まない。

また、図書館情報システムの構築及び保守についても別途契約するため本調達には含まない。

## 6. 前提条件

(1) パッケージソフトウェアは、Webアプリケーションを基本とした形式であること。

※ パッケージソフトウェアとは、複数の利用者が共通して使用することを前提とした汎用的なソフトウェアで、小規模なシステム改修や新機能追加等、定期的な改良(バージョンアップ、レベルアップ)が行われるものを指す。

(2) 本システムが必要とするパッケージソフトウェア及びデータベース管理ソフトウェアは、賃借人が使用許諾ライセンスを賃貸借期間に継続して保持できるように調達するものとする。

(3) 200万冊分の内容細目を含む書誌データを全文検索できるパッケージソフトウェア及びデータベース管理ソフトウェアであるものとする。

(4) バージョンアップやレベルアップにより、電子図書やSNSを活用した利用者通知等との連携など新しい機能が追加可能な拡張性があるパッケージソフトウェアであるものとする。

## 7. 賃貸借物件

図書館情報システムの動作に必要なハードウェア及びソフトウェア一式。詳細は、別紙1「賃貸借物件一覧」のとおり。

(本件は、賃貸人が所有する上記物件を賃借人が借り受け、賃料を支払うものである。)

## 8. 賃貸借物件の要件

### (1) 図書館情報システムパッケージソフトウェアの詳細要件

- ①市川市図書館の全図書館資料へのICタグ導入によるセルフ化や自動化を行っている既設のICタグ関連機器と現在運用しているICシステム(iLiscompV3)を継続利用及び妙典こども地域交流館に設置している図書館システム機器と接続して業務運用を図るため、これに適合するパッケージソフトウェアであるものとする。詳細については、別紙2「市川市図書館IC関連機器一覧」を参照すること。
- ②今回調達するデジタルサイネージ、CTIシステム、座席管理システムについて、現行の図書館システムと同様にデータ連携を行えること。
- ③必要となる機能の詳細は別紙3「図書館情報システム機能要件表」に定めているため、内容を十分に確認した上で各機能を実現できるパッケージソフトウェア等を選定すること。

## 9 納入場所

市川市鬼高1丁目1番4号 中央図書館

## 10. 設置場所

### (1) サーバの設置場所 (CTIサーバ、テスト検証サーバ)

市川市鬼高1丁目1番4号 中央図書館

### (2) クライアントの本設置場所

	施設名	所在地	備考
1	中央図書館	市川市鬼高1丁目1番4号	
2	行徳図書館	市川市末広1丁目1番31号	
3	市川駅南口図書館	市川市市川南1丁目10番1号	I-link タウンいちかわザ・タワーズ・ウエスト3階
4	信篤図書館	市川市高谷1丁目8番1号	
5	南行徳図書館	市川市相之川1丁目2番4号	
6	平田図書室	市川市平田1丁目20番16号	
7	塩焼市民図書室	市川市塩焼5丁目9番8号	塩焼小学校内
8	福栄市民図書室	市川市南行徳2丁目2番1号	福栄小学校内
9	大柏市民図書室	市川市大野町2丁目1877番	大柏小学校内

10	西部公民館図書室	市川市中国分2丁目13番8号	
11	大野公民館図書室	市川市南大野2丁目3番19号	
12	曾谷公民館図書室	市川市曾谷6丁目25番5号	
13	東部公民館図書室	市川市本北方3丁目19番16号	
14	いちかわ情報プラザ	市川市南八幡4丁目2番5号	2階窓口
15	千葉商科大学付属図書館	市川市国府台1丁目3番1号	

### 1 1. 納品物件

「7. 賃貸借物件」に示された物件に係る以下のドキュメントを、「4. 担当部課」で指定した場所に、期限までに納品すること。

#### 納品物件一覧表

No	納品物件	期 限
1	賃貸借物件一覧（型名、ライセンスキー明記）	契約日
2	体制表（納入後の連絡先を含む）	契約日から7日以内
3	情報セキュリティ対策チェックリスト	契約日から7日以内及び各年度の4月7日
4	賃貸借物件に関する取扱説明書（写しでも可）	納入期限まで
5	賃貸借物件に関する保証書（写しでも可）	
6	ソフトウェアの使用許諾証書 （公共機関向けライセンスの場合は賃借人名義のもの。それ以外は写しでも可。）	
7	納入物件一覧	

※ 納入物件一覧には、納入機器の製造番号、使用ユニット数（ラックマウント型機器のみ）、消費電力、発熱量、重量を明記すること。

### 1 2. 賃貸借物件の納入

(1) 賃貸借物件は、賃貸人が「9. 納入場所」の示す場所に、一旦全数量を「3. 納入期限」までに納品すること。

(2) 賃貸人は、機器のMACアドレスを賃借人に提示すること。また、賃貸借物件（付属品を含む）には賃借人が指定する管理ラベルを貼付すること。

(3) 賃貸人は、賃借人が指定する「10. 設置場所」に、別紙4「設置場所別機器台数一覧表」で示す機器を本稼働の14日前までに移設すること。

### 1 3. 賃貸借期間終了後について

(1) 賃貸借期間終了後は、賃借人から指示があった場合は、賃貸人の負担により機器の全てを撤収すること。

(2) 前項で示す撤収時において、機器に内蔵される記憶媒体がある場合は、賃貸人の負担に

より、記憶装置の物理的な破壊又は磁気的な破壊によるデータ復元ができない方法でデータ消去を行い、その証明書を賃借人に提出すること。なお、当該消去作業は賃借人施設の外へ撤収する前に、賃借人職員立ち合いのもとで行うこととする。

(3) 賃借人の希望により、契約満了後に月数単位で再リース契約を締結できるものとする。なお、全ての機器ではなく、一部の機器となる場合もある。

#### 14. 秘密の保持

(1) 賃貸人は、この作業によって知り得た秘密を他に漏らしてはならない。契約終了後も同様とする。

(2) 賃貸人は、作業を実施するための個人情報の取扱いについては、別記1「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

#### 15. 情報セキュリティの確保

賃貸人は、作業を実施するに当たり、情報セキュリティの取扱いについては、別記2「情報セキュリティ取扱特記事項」を遵守しなければならない。

#### 16. 契約不適合責任

本契約による賃貸借物件の種類、品質又は数量に関して、契約の内容に適合しないことを賃借人が認識した場合、認識した時点から1年以内の間に賃貸人に対する書面による通知を行うことにより、賃借人は賃貸人に対して不適合部分の修補を求める、若しくは損害の賠償を請求することができるものとする。ただし、賃貸借期間終了日を過ぎた後の不適合認識については、修補又は損害賠償の請求を行えないものとする。

#### 17. 動産総合保険の付保

(1) 賃貸人は、賃貸借契約期間中、賃貸人を保険契約者とする動産総合保険契約を賃貸人の負担により付保しなければならない。

(2) 賃借人の責に帰す事由により物件が損害を受けた場合、賃借人は、賃貸人に支払われた保険金をもって、損害賠償を免れるものとする。

(3) 再リース契約を締結する場合、本契約と同様に賃貸人を保険契約者とする動産総合保険契約を賃貸人の負担により付保しなければならない。

#### 18. 賃貸借物件の保守

賃貸借物件の保守については、別途保守契約を締結するものとする。

#### 19. 公租公課

物件に係る公租公課は、賃貸人の負担とする。

#### 20. 権利義務の譲渡の禁止

賃貸人は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは継承させ、又はその権利を担保に供することはできない。ただし、あらかじめ賃借人の承諾を得た場合は、この限りでない。

## 21. 環境への配慮

納入するハードウェア等について、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の適用となる物品については、グリーン購入法適合品であること。グリーン購入法以外の環境関連基準を満たす機種を選定する場合は、入札における事前質問において本市の了承を得ること。

## 22. その他

(1) 賃貸借物件のサーバ及びクライアントパソコンに対して、賃借人が別途用意するソフトウェアをインストールすることがある。

(2) 納入に係る費用は、賃貸人の負担とする。また、納入及び設置作業に際し生じた残資材及び梱包材等は、賃貸人が撤去すること。

(3) 賃貸人は、暴力団等排除に係る契約解除に関する特約条項を遵守すること。

(4) 本仕様書に定めのない事項については、必要に応じて、賃借人と賃貸人とが協議して定めるものとする。

(5) 契約の履行上の疑義については、賃借人と賃貸人とが協力して解決すること。

## 賃貸借物件一覧

以下の仕様を満たす機器を納入すること。ただし、相当仕様品もしくは上位仕様品を納入しても良いものとする。

## 1. 図書館情報システムに関するサーバ機器(中央図書館設置)

## 1. 1 CTI サーバ

項	品名		仕 様	数量
1	サーバ	形状	タワー型	1
		OS	Windows Server 2022 Standard 以上とすること	
		CPU	Xeon プロセッサ E-2434(3.40GHz/4 コア/12MB)×1 以上とすること	
		主記憶	16GB 以上とすること	
		ストレージ	内蔵 2.5 インチ SAS HDD 300GB(10krpm)×3 (RAID 構成 RAID1+Hotspare)以上とすること	
		バックアップ装置	RDX ドライブを内蔵すること	
		電源ユニット	280W 以下とすること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		搭載ボード	SAS アレイコントローラードを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×2 以上を有すること	
			USB ポートを 3 個以上有すること	
2	付属品	マウス	USB マウス(光学式)を添付すること	
		キーボード	OADG キーボード(109キ/USB)を添付すること	
		ディスプレイ	17 インチ液晶ディスプレイを添付すること	
3	その他	高機能無停電電源装置(UPS)	稼働中の CTI サーバに 5 分間以上電力を供給できること	
		CTI 用装置	アナログ 8CH 音声 CT-BOX (DP 認識付)	
			音声合成ソフト/4 回線	
			USB ヘッドセット	
		CT-BOX 用 8ポートハブ		

## 1. 2 検証テストサーバ

項	品名		仕 様	数量
1	サーバ	形状	ラックマウント型	1

		OS	RedHat Enterprise Linux 9 以上とすること
		CPU	Xeon Gold 6426Y プロセッサ (2.50GHz/16コア/37.5MB)×2 以上とすること
		主記憶	32GB 以上とすること
		ストレージ	内蔵 2.5 インチ SAS HDD 600GB(10krpm)×6 (RAID 構成 RAID1+0+Hotspare)以上とすること
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること
		搭載ボード	SAS アレイコントローラカード (16port/8GB/SAS 12Gbps) を内蔵すること
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 以上を有すること
			USB ポート×4 以上有すること
本体サイズ	1U とすること。		
2	付属品	マウス	USB マウス(光学式)を添付すること
		キーボード	OADG キーボード (109 キー/USB)を添付すること
		ディスプレイ	17 インチ液晶ディスプレイを添付すること

### 1. 3 サーバ関連ソフト

項	品名	数量
1	Windows Server 2025 Device CAL	118
2	WithSecure Elements EPP for Linux Security 新規 5 年官庁向け (1-24)	6
3	PowerChute Serial Shutdown for Business V1.1	1
4	Veritas Backup Exec 23 Media Kit	1
5	Veritas Backup Exec 23 Server	1
6	サーバ監視ソフト (参考) ServerView	2

### 1. 4 データバックアップ用ネットワークハードディスク装置

項	品名	仕様	数量	
1	NAS	形状	デスクトップ	1
		ハードディスク	6TB(3TB×2)、RAID1 以上	
		RAID 方式	ソフトウェア RAID	
		LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T×1	
		搭載ドライブ数	2	
		ベイ数	2	

1. 5 デジタルアーカイブ用ネットワークハードディスク装置

項	品名		仕様	数量
1	NAS	形状	デスクトップ	1
		ハードディスク	2TB(1TB×2)、RAID1 以上	
		RAID 方式	ソフトウェア RAID	
		LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T×1	
		搭載ドライブ数	2	
		ベイ数	2	

2. 図書館情報システムに関する機器

2. 1 管理用パソコン

	品名		仕様	数量
1	PC	形状	デスクトップパソコン	1
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上有すること。 シリアルポート(RS-232C)×1 以上を有すること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB 日本語キーボード(109A キー)を添付すること	
		ディスプレイ	23.8 型ワイド液晶ディスプレイとすること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること	
			リカバリーデータディスク、ドライバースディスク	

2. 2 カウンター用パソコン

項	品名		仕様	数量
1	PC	形状	デスクトップパソコン	4 2
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	

		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上有すること。 シリアルポート(RS-232C)×1 以上を有すること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB 日本語キーボード(109A キー)を添付すること	
		ディスプレイ	23.8 型ワイド液晶ディスプレイとすること	
3	その他		ディスプレイマウントキット (カウンターに設置する際にディスプレイ下部に PC 本体を固定できるもの) セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	1

## 2. 3 事務室用業務パソコン

項	品名	仕 様	数量	
1	PC	形状	デスクトップパソコン	1 4
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上を有すること シリアルポート(RS-232C)×1 以上を有すること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB 日本語キーボード(109A キー)を添付すること	
		ディスプレイ	23.8 型ワイド液晶ディスプレイとすること	
3	その他	ディスプレイマウントキット (カウンターに設置する際にディスプレイ下部に PC 本体を固定できるもの) セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること	1	
		リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク		

2. 4 業務用ノートパソコン

項	品名	仕 様	数量	
1	PC	形状	A4 ノートパソコン	2 4
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上を有すること	
		ディスプレイ	15.6 型ワイド液晶とすること	
		キーボード	日本語テンキー付キーボード(JIS 配列準拠)とすること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること	
			リカバリーデータディスク、ドライバズディスク	1

2. 5 BM 用ノートパソコン

項	品名	仕 様	数量	
1	PC	形状	A4 ノートパソコン	2
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上を有すること	
		ディスプレイ	15.6 型ワイド液晶とすること	
		キーボード	日本語テンキー付キーボード(JIS 配列準拠)とすること	
		バッテリー	連続使用時間を 6 時間以上のバッテリーを内蔵すること	

2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
3	その他		プライバシーフィルターを添付すること	
			バッテリーの持続 6 時間以上の LTE/5G-NSA 対応のモバイルルータを添付すること(利用可能な通信キャリアは NTT コミュニケーションズを想定) セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること	

## 2. 6 館内 OPAC 用パソコン

項	品名		仕 様	数量
1	PC	形状	デスクトップ	1 2
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ(第 13 世代)以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 5 個以上有すること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB 日本語キーボード(109A キー)を添付すること	
		ディスプレイ	17 インチ液晶タッチディスプレイとすること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること	1
			リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	

## 2. 7 WebOPAC 用パソコン

項	品名		仕 様	数量
1	PC	形状	デスクトップ	9
		OS	Windows11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ(第 13 世代)以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	

		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USBポート5個以上を有すること	
2	付属品	マウス	USB光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB日本語キーボード(109Aキー)を添付すること	
		ディスプレイ	23.8型ワイド液晶ディスプレイとすること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m以上)を添付すること	
			リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	1

## 2.8 利用者用デスクトップパソコン

項	品名		仕様	数量
1	PC	形状	デスクトップ	5
		OS	Windows11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ以上とすること	
		主記憶	8GB以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USBポート5個以上を有すること	
2	付属品	マウス	USB光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB日本語キーボード(109Aキー)を添付すること	
		ディスプレイ	23.8型ワイド液晶ディスプレイとすること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2メートル以上)を添付すること	
			外付け USB 接続の DVD 装置	1
			リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	

## 2.9 利用者用ノートパソコン

項	品名		仕様	数量
1	PC	形状	ノートパソコン	2
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ (第 13 世代) 以上とすること	

		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 2 個以上を有すること	
		ディスプレイ	15.6 型ワイド液晶とすること	
		キーボード	日本語テンキー付キーボード(JIS 配列準拠)とすること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m以上)を添付すること リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	1

## 2. 10 座席予約用パソコン

項	品名		仕 様	数量
1	PC	形状	デスクトップ	4
		OS	Windows 11 Pro とすること	
		CPU	インテル Core i5 プロセッサ(第 13 世代)以上とすること	
		主記憶	8GB 以上とすること	
		ストレージ	暗号化機能付 256GB フラッシュメモリ×1 で PC に内蔵すること	
		光学ドライブ	DVD-ROM ドライブを内蔵すること	
2	付属品	マウス	USB 光学式マウスを添付すること	
		キーボード	USB 日本語キーボード(109A キー)を添付すること	
		ディスプレイ	17 インチ液晶タッチディスプレイとすること	
3	その他		セキュリティワイヤー(2m 以上)を添付すること リカバリーデータディスク、ドライバーズディスク	1

## 2. 11 デジタルサイネージ用パソコン

項	品名		仕 様	数量
1	PC	形状	デスクトップ型	3
		OS	Windows 11 pro とすること	
		CPU	インテル Celeron プロセッサ(第 11 世代)以上と	

			すること	
		主記憶	4GB 以上とすること	
		ストレージ	SSD 128GB で PC に内蔵すること	
		内蔵インターフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T×1 USB ポート 2 個以上有すること HDMI(2.0)×1、 以上を有すること	
2	その他		セキュリティワイヤー (2 メートル以上) を添付すること	
			マウスとキーボードのセット	1
			リカバリーデータディスク、ドライバズディスク	

## 2. 1 2 サイネージ用ディスプレイ①

1	サイネージディスプレイ	形状	43V 型ワイド液晶	2
		最大解像度	3,840×2,160 ドット	
		視野角	左右 178° /上下 178° (コントラスト比≥10)	
		タッチパネル	検出方法 赤外線遮断検出方式 PC 接続端子 USB2 系統	
		入力端子	HDMI	
		出力端子	HDMI 1 系統	
		USB	USB 端子×1 以上有すること	
		その他	ディスプレイ設置用のサイネージスタンド 傾斜タイプを用意すること	

## 2. 1 3 デジタルサイネージ用ディスプレイ②

1	サイネージディスプレイ	形状	27 型液晶タッチパネル	1
		最大解像度	1,920×1,080	
		最大表示色	1,677 万色	
		視野角	上下 178° 左右 178	
		タッチパネル	方式 投影型静電容量方式 通信 USB および RS-232C	
		タッチパネル通信接続	USB タイプ B RS-232C ミニ D-Sub15 ピン(メス)	
		映像信号入力接続	アナログ : RGB ミニ D-Sub15 ピン (メス) デジタル : HDMI	
		USB 接続	USB ポート 1 個以上	

2. 1 4 バーコードタッチリーダー

項	品名	仕 様	数量	
1	バーコードタッチリーダー	対応 OS	Windows 11	8 3
		光源	赤色 LED (波長 : 625nm)	
		読取可能コード	NW-7 (CODABAR)	
		最大読取幅	約 65mm(左右マージン含む)	
		コード識別	自動判別/読取コード指定可	
		スキャン速度	平均 350 スキャン/秒	
		インターフェース	USB コネクタ (A タイプ)	
		出力モード	キーボードイメージ	
		読取操作	トリガスイッチ モード(オートオフモード/連続読取モード)	
		ケーブル	ストレート 長さ 2m 程度とすること	

2. 1 5 カラーレーザープリンタ

項	品名	仕 様	数量	
1	カラーレーザープリンタ	印刷方式	LED アレイ+電子写真プロセス(1 成分)(乾式)	1
		データ処理解像度	600×1200dpi、600×600dpi、600×600dpi(4 階調)	
		印刷速度	片面印刷 A4 カラー/モノクロ : 36 枚/分 A3 カラー/モノクロ : 20 枚/分 両面印刷 A4 カラー/モノクロ : 27 枚/分 A3 カラー/モノクロ : 18 枚/分	
		使用できる用紙とサイズ	普通紙/再生紙 A3、B4、A4、B5、A5 ラベル紙 A4、レター はがき/往復はがき 定形の郵便はがきサイズ	
		給紙口と用紙サイズ	マルチパストレイ 普通紙/再生紙(A3、B4、A4、B5、A5、 給紙トレイ(標準セット) 普通紙/再生紙(A3、B4、A4、B5、A5 拡張給紙ユニット(オプション) 普通紙/再生紙(A3、B4、A4、B5、A5、レター、リーガル	
		両面印刷	標準搭載	
		インターフェース	LAN インターフェース(1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 共用)	
		ファーストプリ	給紙トレイ 6.3 秒以下	

	ントタイム	カセット1 6.3秒以下
	ウォームアップ タイム(電源投入 時)	20秒以下(パワーセーブ復帰時：約9.9秒以下)
	その他	拡張給紙ユニット1段を添付すること

2. 16 モノクロレーザープリンタ(A3)

項	品名	仕様	数量	
1	モノクロ レーザー プリン タ	印刷方式	半導体レーザーによる乾式電子写真方式	18
		データ処理解像度	1200dpi×1200dpi、600dpi×600dpi、300dpi×300dpi	
		印刷速度	片面印刷 A4：40枚/分 A3：22枚/分 両面印刷 A4：28枚/分 A3：11枚/分	
		使用できる用紙 とサイズ	普通紙/再生紙 A3、B4、A4、B5、A5 ラベル紙 A3、B4、A4、B5、A5	
		給紙口と用紙サ イズ	給紙トレイ(手差し) 普通紙/再生紙(A3、B4、A4、 B5、A5) 給紙カセット 普通紙/再生紙(A3、B4、 A4、B5、A5) 拡張給紙ユニット(オプション) 普通紙/再生紙(A3、B4、 A4、B5、A5)	
		両面印刷	標準搭載	
		インターフェー ス	LAN インターフェイス(1000BASE-T/100BASE- TX/10BASE-T 共用)	
		ファーストプリ ントタイム	給紙トレイ 6.3秒以下 カセット1 6.3秒以下	
		ウォームアップ タイム(電源投入 時)	18秒以下	
		その他	拡張給紙ユニット1段を添付すること	

2. 17 モノクロレーザープリンタ(A4)

項	品名	仕様	数量	
1	モノクロ レーザー プリン タ	印刷方式	LEDアレイ+電子写真プロセス(1成分)(乾式)	7
		データ処理解像度	1200×1200dpi、600×600dpi、300×300dpi 調)	

	印刷速度	片面印刷 A4 : 40 枚/分 両面印刷 A4 : 20 枚/分
	使用できる用紙とサイズ	普通紙/再生紙 A4、A5、A6、B5 ラベル紙 A4、レター
	給紙口と用紙サイズ	給紙トレイ 普通紙/再生紙(A4、A5、A6、B5、レター) 給紙カセット 普通紙/再生紙(A4、A5、A6、B5、レター) 拡張給紙ユニット(オプション) 普通紙/再生紙(A4、A5、A6、B5、レター)
	両面印刷	標準搭載
	インターフェース	LAN インターフェイス(1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 共用)
	ファーストプリントタイム	給紙トレイ 4.5 秒以下 カセット 1 4.5 秒以下
	ウォームアップタイム(電源投入時)	17 秒以下(電源投入時/パワーセーブ復帰時)

## 2. 18 レシートプリンタ

項	品名	仕様	数量	
1	レシートプリンタ	印刷方式	ラインサーマル	102
		インターフェース	USB ポートを有すること	
		印字可能領域	紙幅 80mm 時 : 576 ドット(42/32 桁モード時 : 546 ドット)	
		フォント	12×24、10×24、9×17 (ANK) 24×24、20×24 (漢字)	
		印字桁数	紙幅 80mm 時 48/35 桁モード時 48/57/64 桁(ANK)24/28 桁(漢字) 42/32 桁モード時 42/54/60 桁(ANK)21/27 桁(漢字)	
		対応文字コード	JIS、Shift_JIS、Shift_JIS-2004、UTF-8	
		バーコード規格	NW-7	
		印字密度	203dpi×203dpi	
		印字速度	最大 300mm/秒	
		オートカッター	パーシャルカット(中央 1 点切り残し)/フルカット	
		その他	USB ケーブル 2m を全台数分用意すること	

2. 19 カラーインクジェットプリンタ(A3)

項	品名	仕様	数量	
1	インクジェットプリンタ	印刷方式	PrecisionCore インクジェット方式	1
		解像度	最高：4,800×2,400dpi	
		インク	4色、独立型インク	
		印刷スピード	カラー 約 12ipm(A4 縦)/最速：約 22 枚/分 モノクロ 約 25ipm(A4 縦)/最速：約 32 枚/分 両面印刷 モノクロ印刷時：約 16ipm(A4 縦) カラー印刷時：約 9ipm(A4 縦)	
		自動両面印刷	標準対応	
		ウォームアップタイム	電源 ON 時：13.0 秒以下、節電復帰時：1.0 秒以下とすること	
		ファーストプリントタイム(A4)	カラー：約 8.5 秒、モノクロ：約 5.5 秒程度とすること	
		インターフェイス	100BASE-TX/10BASE-T を有すること	

2. 20 コインバンダー印刷機

項	品名	仕様	数量	
1	コインバンダープリンタ	印刷方式	電子写真方式(カラー複合機)	1
		解像度	1,800dpi 相当×600dpi (スモーキング時) または 1,200dpi×1,200dpi (1,200dpi モード時)	
		印刷スピード	A4 ヨコ 25 枚/分 A3 15 枚/分	
		両面印刷	標準	
		ウォームアップタイム(主電源 ON)	カラー/モノクロ 11 秒以下	
		ファーストプリントタイム	カラー 6.9 秒以下 モノクロ 5.2 秒以下	
		インターフェイス	Ethernet 10Base-T / 100Base-TX / 1000Base-T を有すること	
2	コインバンダー機器	使用硬貨	10 円、50 円、100 円、新 500 円硬貨	1
		価格設定種類	ジョブ/カラー/用紙サイズ毎	
		販売単価設定	10 円～990 円 (10 円単位)	
		硬貨収納量 (金)	約 1,900 枚 (10 円硬貨換算時の金庫収納枚数)	

	庫)	
	釣り銭収納量 (釣り銭ボックス)	■10円/約92枚 ■50円/約82枚 ■100円/約77枚 ■500円/約70枚
	盗難防止ブザー	アラーム音圧: 約80dB/m
	その他	領収書を発行できること

## 2. 2 1 ICリーダーライタ装置

項	品名	仕 様	数量
	送信周波数	13.56MHz ±50ppm(Ta=25°C)	2
	送信出力	1W ± 20%	
	動作タグ	ISO/IEC15693、ISO/IEC18000-3(Mode1)準拠 ・ Tag-it HF-I(Plus/Standard/Pro) ・ I CODE SLI(SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX2) ・ my-d(SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P my-d light)	
	アンチコリジョン	対応	
	ホストインターフェース	■RS-232C ■USB2.0/1.1(仮想COMポート)	
	対応OS(USBドライバ)	Windows 11	
	その他	付属品 ACアダプタ、RS-232Cクロスケーブル、USBケーブル、CD-ROMドライバ、本体固定用ブラケットを添付すること	
2	アンテナ	タイプ 共振周波数	2
		金属用アンテナ 13.56MHz	

## 3. 図書館情報システムネットワーク機器

### 3. 1 ファイアウォール

項	品名	仕 様	数量
1	FW	インターフェイス システム性能	3
		・ GbE RJ45 WAN/DMZ ポート 2/1 ・ GbE RJ45 内蔵ポート 5 ・ USB ポート 1 ・ RJ45 シリアル管理コントロールポート 1 ・ ファイアウォールスループット 10/10/6Gbps (1518/512/64 バイト UDP パケット)	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイアウォールレイテンシ (64バイトUDPパケット) 2.54 μs</li> <li>ファイアウォールスループット(パケット/秒) 9Mpps</li> <li>ファイアウォール同時セッション(TCP) 1.5M</li> <li>ファイアウォール新規セッション/秒(TCP) 35,000</li> <li>ファイアウォールポリシー 5,000</li> <li>仮想UTM(VDOM:標準/最大) 10/10</li> <li>高可用性(HA)</li> </ul>	
	形状	デスクトップ	

### 3. 2 ファイアウォール用 Syslog サーバ

項	品名	仕様	数量
1	FW用 Syslog サーバ	Syslog サーバ	1
	インターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/100/1000BASE-T×4</li> <li>USB(コンソール) MicroUSB type-B×1</li> </ul>	
	最大ログ受信容量	240GB	
	その他	収集したログを本体内に保存し、WebUI上で閲覧できること。 ログのフィルタリングルールを搭載していること。	

### 3. 3 DMZ 延長用ルータ

項	品名	仕様	数量
1	ルータ	10/100/1000BASE-T × 5ポート (うち4ポートはスイッチングハブ)	2
	ブリッジ機能	トランスパレントブリッジ、フルータ、Ethernet over IP、Ethernet over GRE	
	ルーティング機能	IPv4 RIP、RIPv2、OSPFv2、BGP4、ポリシールーティング、スタティック IPv6 RIPng、OSPFv3、ポリシールーティング、スタティック	
	Firewall 機能	MAC フレームフィルタリング、IPパケットフィルタリング(静的フィルタ/動的フィルタ)、IDS(IPv4)	
	UTM 機能	IPv4/IPv6 アンチウイルス、不正侵入防止、Webガード、URLフィルタリング	

	認証機能	AAA、RADIUS クライアント(IPv4)、PAP/CHAP、 IEEE802.1X 認証、MAC アドレス認証、 Web 認証、ダイナミック VLAN	
	その他	19 インチラック取付棚を用意すること。	

### 3. 4 レイヤー3 スイッチ

項	品名	仕 様	数量	
1	L3 スイッチ	基本インターフェース	10/100/1000BASE-T 44 ポート(EEE 対応)	1
		パフォーマンス	・ MAC アドレス登録数 32,000	
		インターフェース仕様	オートネゴシエーション、速度固定、全二重/半二重固定、 Auto MDI/MDI-X、フロー制御 IEEE802.3x(全二重)/バックプレッシャー(半二重)	
		VLAN 機能	・ VLAN サポート(ポート VLAN/IEEE802.1Q タグ VLAN/プロトコル VLAN) ・ VLAN 数 (装置最大定義数) 4,094	
		ネットワーク認証	ARP 認証、MAC アドレス認証、IEEE802.1X 認 証、Web 認証	
		BPDU/EAP 透過	対応	
		ループ 検出機能	有	
		ストーム制御機能	ブロードキャスト/マルチキャスト 有 ポート閉塞/流量制限 有	
		QoS 機能	・ 優先制御条件 IEEE802.1p (COS) / TOS (IP Precedence) /DSCP/ACL (IPv4、IPv6) ・ 優先制御方式 strict/wrr ・ 書き換え可能な優先度 IEEE802.1p (COS) /TOS (IP Precedence) /DSCP	
		ACL (フィルタ リング)	レイヤー2 (送信元/宛先 MAC アドレス) /レ イヤー3 (送信元/宛先 IPv4、IPv6 アドレス) /レイヤー4 (送信元/宛先ポート番号)	
		L3 機能	・ ルーティングプロトコル IPv4、IPv6 ・ IP インターフェース数 (IPv4/IPv6) 100	
その他	・ ポート間アクセス制御 有 ・ 接続端末数制限機能 有 ・ リンクダウンリレー機能 有			

### 3. 5 レイヤー2 スイッチ①

項	品名		仕 様		数量	
1	L2 スイッチ	基本インターフェース	10/100/1000BASE-T	44 ポート(EEE 対応)	1	
		パフォーマンス	・ MAC アドレス登録数	32,000		
		インターフェース仕様	オートネゴシエーション、速度固定、全二重/半二重固定、Auto MDI/MDI-X、フロー制御 IEEE802.3x(全二重)/バックプレッシャー(半二重)			
		VLAN 機能	・ VLAN サポート(ポート VLAN/IEEE802.1Q タグ VLAN/プロトコル VLAN) ・ VLAN 数 (装置最大定義数) 4,094			
		ネットワーク認証	ARP 認証、MAC アドレス認証、IEEE802.1X 認証、Web 認証			
		BPDU/EAP 透過	対応			
		ループ 検出機能	有			
		ストーム制御機能	ブロードキャスト/マルチキャスト	有		
			ポート閉塞/流量制限	有		
		QoS 機能	・ 優先制御条件 IEEE802.1p (COS) / TOS (IP Precedence) / DSCP / ACL (IPv4、IPv6) ・ 優先制御方式 strict / wrr ・ 書き換え可能な優先度 IEEE802.1p (COS) / TOS (IP Precedence) / DSCP			
		ACL (フィルタリング)	レイヤー2 (送信元/宛先 MAC アドレス) / レイヤー3 (送信元/宛先 IPv4、IPv6 アドレス) / レイヤー4 (送信元/宛先ポート番号)			
		ポートミラーリング機能	有			
		端末可視化機能	有			
ネットワーク可視化機能	対応参考：富士通製 NXconcierge)					
その他	・ ポート間アクセス制御 有 ・ 接続端末数制限機能 有 ・ リンクダウンリレー機能 有					

### 3. 6 レイヤー2 スイッチ②

項	品名		仕 様		数量
1	L2 スイッチ	基本インターフェース	10/100/1000BASE-T	24 ポート(EEE 対応)	3
		パフォーマンス	・ MAC アドレス登録数	32,000	

	インターフェース仕様	ポートネゴシエーション、速度固定、全二重/半二重固定、Auto MDI/MDI-X、フロー制御 IEEE802.3x(全二重)/バックプレッシャー(半二重)	
	VLAN 機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ VLAN ポート(ポート VLAN/IEEE802.1Q タグ VLAN/プロトコル VLAN)</li> <li>・ VLAN 数 (装置最大定義数) 4,094</li> </ul>	
	ネットワーク認証	ARP 認証、MAC アドレス認証、IEEE802.1X 認証、Web 認証	
	BPDU/EAP 透過	対応	
	ループ 検出機能	有	
	ストーム制御機能	ブロードキャスト/マルチキャスト 有 ポート閉塞/流量制限 有	
	QoS 機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優先制御条件 IEEE802.1p (COS) / TOS (IP Precedence) / DSCP / ACL (IPv4、IPv6)</li> <li>・ 優先制御方式 strict / wrr</li> <li>・ 書き換え可能な優先度 IEEE802.1p (COS) / TOS (IP Precedence) / DSCP</li> </ul>	
	ACL (フィルタリング)	レイヤー2 (送信元/宛先 MAC アドレス) / レイヤー3 (送信元/宛先 IPv4、IPv6 アドレス) / レイヤー4 (送信元/宛先ポート番号)	
	ポートミラーリング機能	有	
	端末可視化機能	有	
	ネットワーク可視化機能	対応 (参考: 富士通製 NXconciierge)	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポート間アクセス制御 有</li> <li>・ 接続端末数制限機能 有</li> <li>・ リンクダウンリレー機能 有</li> </ul>	

### 3. 7 8ポートスイッチングハブ

項	品名		仕 様	数量
1	8ポート スイッ チ	基本インターフェース	10/100/1000BASE-T 8ポート	20
		パフォーマンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スイッチ容量(bps) 16G</li> <li>・ 最大パケット転送能力(PPS) 1,190万</li> <li>・ MACアドレス登録数 4,000</li> </ul>	
		インターフェース仕様	ポートネゴシエーション、Auto MDI/MDI-X、フロー制御 IEEE802.3x(全二重)/バックプレッシャー(半二重)	

	BPDU/EAP 透過	対応
	ループ 検出機能	有
	その他	マグネットで設置できること

#### 4. 図書館情報システムアプリケーション他ソフトウェア

##### 4. 1 図書館システム用アプリケーション

図書館システムパッケージの機能要件は、別紙 3「図書館情報システム機能要件表」を参照し、これと同等もしくは上位仕様のパッケージを用意し、データベースの構築、全文検索エンジン、クライアントパソコン等、図書館システムパッケージの稼働に必要なライセンスを台数分用意すること。

(参考) 現行使用している図書館システムパッケージの製品名と構成、追加オプション、連携システム等は、以下のとおり。

製品名： (参考)	富士通 大規模館向け図書館システムパッケージ iLisfiera (アイリス・フィエラ) ヴァージョンとレベル：V3.9 L17
構成：	業務用と蔵書公開用データベースのダブル構成

項	名称	数量
アプリケーション (参考)	iLisfiera データベースサーバ R8 以上のライセンス	2
	iLisfiera 基本アプリケーションオープンサーバ R8 以上	3
	iLisfiera 基本アプリケーションビジネスサーバ R8 以上	2
ライセンス (参考)	全文検索エンジン ライセンス (業務 DB 用と蔵書公開 DB 用)	2
	全文検索エンジン MARC 登録追加用 ライセンス (上記と同様)	2
	全文検索エンジン インターネット公開用ライセンス	1
	全文検索エンジン BM 版 (2.5)	1
	業務パソコン クライアントライセンス (2.1,2.2,2.3,2.4)	82
	業務パソコン クライアントライセンス (既設機器用。パッケージに iListfiera を選定する場合は不要)	2
オプション (参考)	館内 OPAC クライアントライセンス (2.6)	12
	レファレンス・サービス …窓口及びウェブからのレファレンスを情報共有	1
	SDI サービス …利用者がウェブで登録したキーワードを定期的に検索して通知	1
	収書拡張または流通取次連携 …図書館流通センター (TRC) との連携	1
	相互貸借…他自治体から借用した資料を管理する仕組み	1
	レプリケーション…データベースの同期を取るための仕組み	1

	リクエスト…窓口及びウェブからの未所蔵予約(リクエスト)を管理する仕組み	1
	典拠、OPAC 典拠参照検索…人名典拠、学習件名を参照して検索や登録をする仕組み	1
	スタンドアロン…モバイルノート及び停電時の非常時対応	2
連携システム (参考)	① CTI システム着信及び発信連携システム CT-BOX「発信系・図書館音声応答システム」フェロー製 CT-BOX「着信系・図書館音声応答システム」フェロー製	1 1
	② IC タグ関連連携システム IC 自動貸出システム (3M 自動貸出 (ABC) 連携を含む) IC ゲート連携システム IC タグ関連クライアント	1 1 10
	③ 座席管理連携システム (タックポート製、eBOOTH 連携)	1
	④ デジタルサイネージシステム (カテナス製、Editor および Player ライセンスを含む)	1

#### 4. 2 その他ソフト

項	品名	メーカー	数量	備考
1	NCE Microsoft 365 Apps for enterprise Y	Microsoft	6	66ヶ月分
2	NCE Microsoft 365 Apps for business Y	Microsoft	76	66ヶ月分
3	Windows11 Pro Upgrade	Microsoft	1	
4	InfoBarrier V11 メディアパック	富士通	1	
5	InfoBarrier V11 Control Client	富士通	35	
6	Systemwalker Desktop Restore Professional メディアパック(64bit)V16	富士通	1	
7	Systemwalker Desktop Restore Professional クライアントライセンス for Windows(SL&S)	富士通	118	66ヶ月分
8	i-FILTER Ver. 10 アカデミックライセンス 100~199	デジタルアーツ	118	
9	AssetView 専用データベース(MySQL)	ハンモック	1	
10	AssetView スタンドードパッケージ (100~199)	ハンモック	118	
11	AssetView (100~199)年間利用料	ハンモック	118	66ヶ月分
12	NCE Power Automate Premium Y	Microsoft	2	66ヶ月分
13	Visual Studio Professional 2022	Microsoft	1	
14	Photoshop Elements 2024	Adobe	1	

※ソフトウェアは、日本語対応版が存在するものは、日本語対応版を基本とすること。

※ソフトウェアは、ライセンス契約を基本とすること。(なお、機器納品時から賃貸借期間終了までライセンスが途切れないこと)

※各ソフトウェアのライセンス違反が起こらないよう選定すること。

※ライセンス証書のあるソフトウェアは、名義を市川市として納品し、ライセンス証書を1部提出すること。

別紙2 市川市図書館 IC 関連機器仕様

市川市中央図書館・こどもとしょかん導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライタ	木製カウンター用リーダーライタ 1W A4 版		15 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	金属机用 1W アンテナセット A4 版		7 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		15 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂取引を国内代理店として いる。		
	自動貸出機	selfCheck500 full height kiosk (Windows10 ベース) 自立型自動貸出機	
アプリケーション		富士通アプリケーション	富士通独自仕様
selfCheck500D desktop kiosk (Windows10 ベース) 卓上型自動貸出機		6 台	
アプリケーション		富士通アプリケーション	富士通独自仕様
自動返却機	木製カウンター用 1W アンテナセット A4 版 LAN		6 台
	IC リーダー	TR3X-LN01	
	アンテナ	TR3-SA102 LAN	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
セキュリティゲート	RFID GATE CRYSTAL TRIPLE (Gate4 本-3 通路)		2 台
	アプリケーション	ABCIII プロトコル	
	アプリケーション	新ゲートトラッカー (監視・入館者統計ソフト一式)	Bibliotheca 社製
	アプリケーション	日本語表示用 ABC コンバーターソフト一式)	Bibliotheca 社製
	RFID GATE CRYSTAL SINGLE(Gate2 本-1 通路)		2 台
	アプリケーション	ABCIII プロトコル	

	アプリケーション	新ゲートトラッカー（監視・入館者統計ソフト一式）	Bibliotheca 社製
	アプリケーション	日本語表示用 ABC コンバーターソフト一式）	Bibliotheca 社製
予約棚システム（5段／棚）	予約棚システム(ジャパンシステム社製)		19 台
	アプリケーション	ファイル転送	FTP
予約確認機	ESPRIMO D588/V		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自システム
蔵書点検機器	ハンディアンテナ ガングリップタイプ (LAN)		6 台
	IC リーダーライター	TR3X-LN01	
	アンテナ	TR3-HA301A(LAN)	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自システム

行徳図書館導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライター	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		6 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂取引を国内代理店として いる。		
	金属机用 1W アンテナセット A4 版		10 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
自動貸出機	selfCheck500 full height kiosk (Windows10 ベース) 自立型自動貸出機		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	自動貸出機(専用台座付)(ソフエル社)		5 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
自動返却機	木製カウンター用 1W アンテナセット A4 版 LAN		2 台
	IC リーダー	TR3X-LN01	
	アンテナ	TR3-SA102 LAN	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様

セキュリティゲート	RFID GATE CRYSTAL SINGLE(Gate2 本-1 通路)		1 台
	アプリケーション	ABCⅢプロトコル	
	透明タイプ 1 通路ゲート装置		1 台
	アンテナ	TR3X-G004-1P	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自システム
予約棚システム (5 段 / 棚)	予約棚システム(ジャパンシステム社製)		10 台
	アプリケーション	ファイル転送	FTP
予約確認機	ESPRIMO D588/V		1 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自システム
蔵書点検機器	無線一体型ハンディ(アンテナ脱着式)		4 台
	本体	TR3X-HT201BT	
	アンテナ	TR3X-HTA201	
	アプリケーション	タカヤアプリケーション	タカヤ独自システム

市川駅南口図書館導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライタ	金属机用 1W アンテナセット A4 版(リーダーライタ合)		10 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
自動貸出機	自動貸出機(専用台座付)(ソフエル社)		3 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
セキュリティゲート	透明タイプ 1 通路ゲート装置		1 台
	アンテナ	TR3X-G004-1P	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	透明タイプ 2 通路ゲート装置		
	アンテナ	TR3X-G004-2P	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
蔵書点検機器	無線一体型ハンディ(アンテナ脱着式)		4 台
	本体	TR3X-HT201BT	
	アンテナ	TR3X-HTA201	
	アプリケーション	タカヤアプリケーション	タカヤ独自システム

南行徳図書館導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライター	金属机用 1W アンテナセット A4 版		1 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂交易を国内代理店として いる。		

信篤図書館導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライター	金属机用 1W アンテナセット A4 版		1 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂交易を国内代理店として いる。		

平田図書室導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライター	金属机用 1W アンテナセット A4 版		1 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂交易を国内代理店として いる。		

	いる。
--	-----

大野公民館図書室導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライタ	木製カウンター用リーダーライタ 1W A4 版		1 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		1 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂交易を国内代理店として いる。		

西部公民館図書室導入 IC 関連機器仕様

IC 機器名	製品名		台数
	構成品	製品番号	通信プロトコル
IC リーダーライタ	金属机用 1W アンテナセット A4 版		1 台
	IC リーダー	TR3X-LDU01	
	アンテナ	TR3-SA102M	
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	Q10300 STAFFSTATUON (USB タイプ)		2 台
	アプリケーション	富士通アプリケーション	富士通独自仕様
	※Bibliotheca 社製 RFID 機器の販売取引は、高千穂交易を国内代理店として いる。		

## 別紙 3

# 図書館情報システム機能要件表

### 目次

1. 全般 .....	2
2. 奉仕業務(貸出・返却・予約・利用者情報管理)機能 .....	3
3. 資料管理業務、蔵書点検 .....	17
4. 統計業務 .....	30
5. 利用者に関するサービス(OPAC,CTI 等) .....	31
6. 書庫出納管理システム .....	47
7. IC タグ関連機器連携システム .....	47
8. セルフ座席管理システム .....	50
9. デジタルサイネージ .....	52
10. リクエスト .....	56
11. レファレンス .....	57

# 1. 全般

1-1	250人分のオペレータID・パスワードを個別に設定することができ、使用できる業務のアクセス権限を設定できること。
1-2	オペレータIDごとに、データベースアクセスログ、業務ログを確認できること。
1-3	端末ごとに、データベースアクセスログ、業務ログを確認できること。
1-4	Webアプリケーションのパッケージソフトウェアを基本とした形式であること。また、業務システムはレスポンスを考慮していること。
1-5	バックアップ処理、ファイル監視等はコンピュータを専門としない職員でも実施できること。
1-6	カスタマイズ可能な製品であること。また、要望を反映した定期的なレベルアップがあるシステムパッケージであること
1-7	図書館数が増えた場合、館コード設定や所蔵場所コード設定の追加が容易にできること。
1-8	毎日の返却期限を自動算出できるように、システムパッケージに開館日カレンダーを持つことができること。
1-9	開館日カレンダーは、館別に設定ができること。また、必要に応じてカレンダー内容の変更ができること。
1-10	開館カレンダーは、各OPAC(Web-OPAC、館内OPAC、携帯電話OPAC)において参照でき、館単位で表示/非表示の設定が可能なこと。
1-11	図書館が定める返却期限の設定が自動でき、休館日や長期休館に当たる場合などは、あらかじめ加算日数を入力または設定することにより、変更できること。
1-12	現行システムで利用しているローカルコード体系は、すべて継承できること。
1-13	利用者コードの体系は、現在7桁(末尾はチェックデジット)でNW-7を使用している。今後、登録者数の増加により、桁数が違う利用者コードが混在しても使用できるシステムであること。
1-14	システムパッケージは、多言語(ユニコード)対応であること。
1-15	資料数が多い韓国語および中国語の多言語表示については、レシート、各種帳票にも表示されること。
1-16	暗号化通信(SSL)に対応していること。
1-17	帳票は出力の前に、紙面イメージをPDFファイル等にして、画面表示で事前に確認できること。
1-18	帳票抽出するための選択条件は、多くの選択項目が用意されており、項目間で掛け合わせができること。
1-19	帳票の出力は、特定の条件を除くという抽出方法も用意されていること。
1-20	帳票出力の際に、ソートできる項目が用意されており、いくつか組み合わせてソートができること。
1-21	すべての帳票の抽出画面において、抽出した際の「条件の記録」ができること。
1-22	複数業務の同時起動が可能で、現在の作業をキャンセルすることなく別業務を立ち上げられること。

1-23	各業務画面の背景色を任意に設定可能なこと。
1-24	「削除」「新規作成」「更新」等各業務に共通する作業のボタンは統一した位置、統一したファンクションキーが割り当てていること。

## 2. 奉仕業務(貸出・返却・予約・利用者情報管理)機能

2-1	貸出および返却画面のコード入力域は1箇所であり、利用者コードと資料コードの識別は桁数により自動認識でできること。
2-2	貸出初期表示画面からワンクリックの操作で、利用者検索の画面を呼び出すことができること。
2-3	利用者コード入力後の貸出状況表示一覧画面からファンクションキーの操作で、該当利用者の登録情報詳細画面を呼び出すことができること。
2-4	利用者コード入力後の貸出状況表示一覧画面から1回の操作で、資料詳細表示ができること。なおかつ書誌、所蔵、貸出、予約、発注、内容細目の各情報の表示ができること。
2-5	貸出画面上の利用者名表示については、デフォルトの設定で表示/非表示を選択できるようになっており、かつ運用中に切替えが行えること。
2-6	貸出資料一点ごとに貸出データが、リアルタイムに更新され、どのクライアント端末から見ても同じであること。
2-7	貸出処理中に別の利用者コードを入力できることで、該当利用者の貸出画面に切替わること。その際に直前に入力した貸出情報は更新されること。
2-8	貸出明細、返却期限、利用者番号を印字したレシートを出力できること。
2-9	貸出明細レシートの貸出資料名表示については、デフォルトの設定で当日貸出分/現在貸出中分を選択できること。
2-10	利用者コードを読み込み、資料コードを入力する度に貸出情報は即時反映され、一利用者の貸出終了時に確定操作は不要であること。
2-11	当該利用者の現在の貸出状況一覧画面がすぐ参照できること。
2-12	貸出状況一覧画面で視聴覚資料の区別がすぐ把握できること。[現状：CDは♪、ビデオは★、DVDは◎をタイトル先頭に表示]
2-13	貸出状況一覧画面で延滞資料がある場合、表示の色が違うなど、区別がすぐ把握できること。[現状：延滞は紫色、通常は緑]
2-14	貸出状況一覧画面でステータスが異常な資料がある場合、区別がすぐ把握できること。[現状：注意の欄で「長期延滞」「付録」等を表示]
2-15	当該利用者の現在の予約状況一覧画面が、ファンクションキーの操作で参照でき、1画面に10件以上の予約状況が表示されること。
2-16	予約状況一覧画面では、「利用可能」「返却待ち」などの状態の判別が明確であること。
2-17	当該利用者の予約資料が「利用可能」な場合、貸出画面で警告できること。

2-18	当該利用者への通知メッセージがあるとき、貸出画面で警告でき、当該利用者の通知メッセージ一覧が、ファンクションキーの操作で参照できること。
2-19	貸出規則管理の設定画面において、利用者資格区分、資料種別ごとの貸出冊数制限と貸出期間（日数）を設定できること。
2-20	個人、団体、学校等の利用者資格区分を設定でき、各々に返却期限、貸出点数を設定できること。
2-21	点数の超過貸出が任意にできること。
2-22	返却期限は、館単位の開館スケジュールによりそれぞれ自動的に設定できること。
2-23	返却期限を、クライアント端末単位で任意に変更できること。
2-24	各クライアント端末の設置場所情報により貸出場所情報（貸出館、貸出カウンター）の記録ができること。
2-25	利用者情報が未登録の利用者コードに対して、操作員確認後に仮登録処理ができること。
2-26	禁帯出資料など通常の奉仕規則では貸出不可となるものも操作員確認後、貸出処理できること。
2-27	館内閲覧貸出（貸出日を返却期限とする貸出）ができること。
2-28	貸出のモードについては、デフォルトの設定で通常貸出/閲覧貸出を選択できるようになっており、かつ運用中に切替えが行えること。
2-29	継続（延長）貸出処理ができること。現在の貸出利用者コードが今回の貸出利用者コードと同じ場合は、継続（延長）貸出とする。
2-30	継続貸出の対象資料が予約者ありの資料、相互貸借資料の場合には、エラーを表示し警告ができること。但し操作員確認後、継続貸出処理ができること。
2-31	貸出状況一覧から継続したい資料を選択、または全部選択をして、一括継続貸出の処理ができること。
2-32	紛失弁償中の処理ができること。貸出状況一覧から資料を選択して、「紛失弁償」のステータスに変更できること。この場合、返却処理はせずに、貸出状態のまま、資料のステータス変更できること。
2-33	不明返却の処理ができること。貸出状況一覧から資料を選択して、「書架不明」のステータスに変更できること。この場合、該当利用者の貸出状況から返却処理ができること。
2-34	貸出画面では、利用者コード読み取りの際、以下の場合エラーを表示してチェックができること。なお警告メッセージは適宜変更可能であること。 <input type="checkbox"/> チェックデジットエラー <input type="checkbox"/> 再発行済みにつき無効カード <input type="checkbox"/> 貸出停止者 → 「貸出停止利用者です」操作員確認後、貸出できること。 <input type="checkbox"/> 有効期限経過者 → 「更新の時期が来ています」操作員確認後、貸出できること。 <input type="checkbox"/> 紛失中カード → 操作員確認後、貸出できること。

	<input type="checkbox"/> 二重登録 → 操作員確認後、貸出できること。 <input type="checkbox"/> 未登録利用者コード → 「仮登録」状態にして、貸出できること。
2-35	<p>貸出画面では、利用者コードのチェックによる問題がなければ以下の情報を表示できること。</p> <input type="checkbox"/> 利用者コード <input type="checkbox"/> 利用者名 → 表示／非表示の制御ができること。 <input type="checkbox"/> 利用者宛の通知メッセージ <input type="checkbox"/> 返却期限 <input type="checkbox"/> 利用者の有効期限 <input type="checkbox"/> 利用者資格区分 → 個人／団体など <input type="checkbox"/> 「延滞資料あり」 → 表示時は警告音を鳴らす。 <input type="checkbox"/> 「自館予約確保資料あり（利用可能）」表示時は警告音を鳴らすこと。 <input type="checkbox"/> 「他館予約確保資料あり（他館で利用可能）」表示時は警告音を鳴らすこと。 <input type="checkbox"/> 現在貸出数（自館／全館） → 貸出処理で更新されること。 <input type="checkbox"/> 現在の予約数（全館） → 貸出処理で更新されること。 <input type="checkbox"/> 貸出規則区分ごとの点数（自館／全館） → 貸出処理で更新されること。 <input type="checkbox"/> 今回の貸出数 → 貸出処理で加算表示されること。 <input type="checkbox"/> 貸出館での現在の貸出状況を表示 → 表示後 館コード入力による全館・他館分の表示の切替が可能。 <input type="checkbox"/> 資料コード・貸出日・返却期限・貸出館名・タイトル・分類・貸出注意事項・資料注意事項・次の予約の有無を一行ごとに表示できること。 <input type="checkbox"/> 貸出日・返却期限は6桁以上でわかりやすい表示（例：24/12/02 または 2024/12/02） <input type="checkbox"/> 延滞資料の場合、期限による色識別表示が数種類可能であること。 <input type="checkbox"/> タイトル（巻次含む）は文字数制限がなく、スクロール操作等により、すべて表示できること。タイトルの非表示を選択した時は、請求記号の表示などができること。 <input type="checkbox"/> 貸出注意事項とは、「継続」「延期」「館内」貸出の区別。 <input type="checkbox"/> 資料注意事項とは、「紛失」「付録」「持禁」等の区別。 <input type="checkbox"/> 相互貸借資料としての区別ができること。
2-36	<p>貸出する資料コード読み取りの際、以下の場合エラーをあげてチェックができること。</p> <input type="checkbox"/> チェックデジットエラー

	<input type="checkbox"/> 禁帯出資料 → 操作員確認後、貸出できること。 <input type="checkbox"/> 未登録資料コード → 「仮登録」状態にして、貸出できること。
2-37	貸出する資料コードのチェックによる問題がなければ以下の情報を表示できること。 <input type="checkbox"/> 資料コード・貸出日・返却期限・貸出館名・タイトル・分類・貸出注意事項・資料注意事項・次の予約の有無を一行ごとに表示できること。 <input type="checkbox"/> 貸出日・返却期限は6桁以上でわかりやすい表示（例：24/12/02 または 2024/12/02） <input type="checkbox"/> 延滞資料の場合、期限による色識別表示が数種類可能であること。 <input type="checkbox"/> タイトル（巻次含む）は文字数制限がなく、スクロール操作等により、すべて表示できること。タイトルの非表示を選択した時は、請求記号の表示などができること。
2-38	貸出の際に、以下の関連情報がすぐに更新されること。 <input type="checkbox"/> 利用者の貸出状況 <input type="checkbox"/> 資料の所在情報を貸出中に更新 <input type="checkbox"/> 予約者への貸出は予約情報削除 <input type="checkbox"/> 未返却資料の貸出は返却処理後貸出処理
2-39	貸出画面と返却画面は、背景色、文字色等で識別できること。
2-40	返却処理では、資料一点ごとにリアルタイムに更新され、一点ごとの返却時に確定操作は不要であること。
2-41	返却画面で利用者コードが入力された場合は、貸出業務画面を自動的に開くことができること。
2-42	返却一覧で本以外の資料（CD・ビデオ・DVD）の区別が容易に把握できること。〔例：CDは♪、ビデオは★、DVDは◎をタイトル先頭に表示〕
2-43	各クライアント端末の設置場所情報により返却場所の設定（返却館、返却カウンター）の自動設定ができること。
2-44	資料コード入力後、返却画面からファンクションキーの操作で、その資料を借りていた該当利用者の利用者詳細表示ができること。利用者、貸出、予約の各情報の表示と更新ができること。
2-45	資料コード入力後、返却画面から資料を選択して1回のマウス操作で、資料詳細表示ができること。書誌、所蔵、貸出、予約、発注、内容細目の各情報の表示ができること。
2-46	返却する資料コード読み取りの際、以下の場合エラーをあげてチェックができること。 <input type="checkbox"/> チェックデジットエラー <input type="checkbox"/> 未登録コード
2-47	返却する資料コードのチェックによる問題がなければ以下の情報を表示できること。 <input type="checkbox"/> 自館予約確保処理情報

	<input type="checkbox"/> 利用者コード <input type="checkbox"/> 利用者名 →表示／非表示の制御 <input type="checkbox"/> 予約日 <input type="checkbox"/> 資料宛メッセージ →表示後自動削除／表示後保存の制御 <input type="checkbox"/> 未登録資料 表示時は警告音を鳴らす <input type="checkbox"/> 仮登録資料 表示時は警告音を鳴らす <input type="checkbox"/> 未貸出資料 <input type="checkbox"/> 相互貸借資料 表示時は警告音を鳴らす <input type="checkbox"/> 保存期限経過資料 表示時は警告音を鳴らす <input type="checkbox"/> 予約確保済み資料 表示時は警告音を鳴らす <input type="checkbox"/> 未検収資料 表示時は警告音を鳴らす →ステータス解除 <input type="checkbox"/> 不明資料→不明理由を表示 表示時は警告音を鳴らす →ステータス解除 <input type="checkbox"/> 除籍資料→除籍理由を表示 表示時は警告音を鳴らす →ステータス解除
2-48	予約資料として確保した資料が、予約棚で管理できない資料（IC タグを読み込めない資料）は受取場所を自動でカウンターに設定できること。
2-49	紛失弁償登録資料が返却されたときには、警告音を鳴らすとともに弁償資料レシートが出力されるなど、弁償対象資料であることが分かるような工夫がなされること。
2-50	返却した資料のステータス区分が正常でない場合は、警告音を鳴らすとともにステータス異常レシートが出力されること。出力するステータス区分は指定ができること。
2-51	以下の返却情報を一返却ごとに表示できること。 <input type="checkbox"/> 資料コード <input type="checkbox"/> 配架場所名 <input type="checkbox"/> 次に予約ありの有無 搬送先館名 <input type="checkbox"/> タイトル（巻次含む）は文字数制限がなく、スクロール操作等により、すべて表示できること。）
2-52	返却期限経過資料は色表示ができること。
2-53	返却の際に、以下の関連情報がすぐ更新されること。 <input type="checkbox"/> 貸出情報削除 <input type="checkbox"/> 不明資料の返却は不明解除処理

	<input type="checkbox"/> 除籍資料の返却は除籍解除処理 <input type="checkbox"/> 予約確保の場合は予約情報更新
2-54	回収対象の資料を返却した際は資料回収レシートが出力されること。
2-55	市内を巡回する自動車図書館の貸出・返却・資料検索・予約等はノートパソコンをスタンドアロンとしてデータ蓄積の利用ができること。または、閉域網を使用したオンラインによる業務ができること。
2-56	<p>オフライン貸出・返却ができること。以下の場合を想定</p> <input type="checkbox"/> 移動図書館でのノートパソコン等による貸出・返却、予約がある資料の確保 <input type="checkbox"/> クラウドセンター及び回線障害、一時的な停電等の非常時における各端末での貸出・返却
2-57	オフライン処理のバッチデータを流し込む場合には、オフライン貸出データとオフライン返却データを一緒にして処理時間順に処理できること。
2-58	<p>当該資料がどこからどこに向かっているのか、その搬送状況が、矢印などで把握できること。</p> <p>(例) 中央→行徳 (行徳に向かう)      中央←行徳 (中央に戻る)</p>
2-59	搬送処理がなされた日付の確認ができること。
2-60	搬送先を指定してから、資料コードを連続操作できること。
2-61	<p>搬送依頼する際には、以下の情報を一資料ごとに表示できること。</p> <input type="checkbox"/> 本籍館の館コード、館名 <input type="checkbox"/> 場所コード、場所名 <input type="checkbox"/> 搬送先の館コード、館名 <input type="checkbox"/> タイトル、著者、出版社等 書誌データの基本情報 <input type="checkbox"/> 資料コード
2-62	<p>予約資料を搬送依頼する場合には、以下の情報を表示できること。</p> <input type="checkbox"/> 予約番号 <input type="checkbox"/> 予約受取館 <input type="checkbox"/> 予約者
2-63	確保された予約資料が、予約受取館とは異なる搬送先に送るようにスキャンされたときは、処理がなされずに警告音またはメッセージを表示できること。
2-64	返却した資料が他の館での予約受取希望資料であった場合、受取希望館への配送レシート印刷とともに搬送依頼処理も併せてできること。

2-65	資料が、その本籍館以外の館で返却された場合で、予約等がなかった場合、返却処理をもって本籍館への搬送依頼処理も併せてできること。その際再度の返却処理を行うことを可能とし、再度の操作であることの確認のキー操作等を不要にできること。
2-66	搬送依頼の処理は、自動または省略もできること。 (例) 行徳図書館に返却された中央図書館の資料⇒返却後、自動的に本籍である中央に搬送する処理がなされる。予約がある場合は、予約受取館への搬送処理がなされる。
2-67	他館から資料を受け取る場合のための搬送受付の画面が用意できること。
2-68	搬送受付をするときは、資料コードを連続操作できること。
2-69	搬送受付するときには、以下の情報を一資料ごとに表示できること。 <input type="checkbox"/> 本籍館の館コード、館名 <input type="checkbox"/> 場所コード、場所名 <input type="checkbox"/> 搬送先の館コード、館名 <input type="checkbox"/> タイトル、著者、出版社等 書誌データの基本情報 <input type="checkbox"/> 資料コード
2-70	予約資料を搬送受付する場合には、以下の情報を表示できること。 <input type="checkbox"/> 予約番号 <input type="checkbox"/> 予約受取館 <input type="checkbox"/> 予約者
2-71	搬送画面では、返却もれの資料が混ざっていた場合、返却処理がなされること。
2-72	搬送件数の統計がとれること。
2-73	利用者の仮登録ができること。仮登録とは利用者コードのみの登録であり、貸出・予約でも使用可能であること。
2-74	利用者コードを入力できることにより、登録項目入力域を呼び出すことができること。
2-75	利用者登録できる項目は以下の内容であること。 <input type="checkbox"/> 利用者コード <input type="checkbox"/> 利用者の資格区分 (仮登録・個人・団体・学校・相互貸借の協力館、隣接市個人など) <input type="checkbox"/> 登録の資格区分 (在住・在勤・在学・隣接・障害者・外国人) <input type="checkbox"/> 氏名 (カナ・漢字) 外国人利用者のために字数制限がないこと。

	<p>全角表記にこだわらず、アルファベット半角でも入力ができること。          難読漢字や中国の簡体字・繁体字等、ユニコードで登録できること。</p> <p><input type="checkbox"/> 性別項目（男・女）は必須項目でないこと。  <input type="checkbox"/> 生年月日（西暦・和暦ともにできること。）  <input type="checkbox"/> 保護者名（小学生以下の場合）  <input type="checkbox"/> 代表者名（団体登録の場合）  <input type="checkbox"/> 勤務先名（在勤の場合）  <input type="checkbox"/> 通学先名（在学の場合）  <input type="checkbox"/> 国籍（外国人利用者の場合）  <input type="checkbox"/> 障害クラス（障害者の内訳、聴覚障害・視覚障害・肢体障害など、プライバシーに考慮して記号表示ができること）  <input type="checkbox"/> 自動車図書館ステーションNo.またはステーション名  <input type="checkbox"/> 電話番号 2つ以上入力できること。          携帯番号の場合、ハイフンをいれて13桁以上の数値が入力できること。</p> <p><input type="checkbox"/> 電話番号の種別区分（なし・自宅・勤務先・呼出・帰省先・FAX・携帯など）  <input type="checkbox"/> メールアドレス 2つ以上入力できること（携帯アドレス・パソコンアドレス）  <input type="checkbox"/> メールアドレスの 有効/無効 区分  <input type="checkbox"/> パスワード（CTIとWebサービスのそれぞれ設定できること。）  <input type="checkbox"/> 住所および郵便番号  <input type="checkbox"/> 町丁コード（統計用）  <input type="checkbox"/> 登録日、登録館  <input type="checkbox"/> 有効期限  <input type="checkbox"/> 通知メッセージ項目  <input type="checkbox"/> 予約棚対象者</p>
2-76	利用者の簡易登録ができること。必須項目のみ入力すれば簡易登録ができること。
2-77	新規登録時に登録済み利用者のデータを呼び出して複写登録できること。また、家族で連続して登録する際に、ひとつ前の利用者を呼び出して複写登録できること。
2-78	保護者、代表者の項目は、個人登録が存在する場合はIDやコードで管理が可能なこと。
2-79	利用者登録内容の変更は随時可能であること。

2-80	新規登録を希望する利用者が Web-OPAC を通じて事前に仮登録にできること。また、そのデータを所定の様式に打ち出すことができること。
2-81	利用者登録の更新を希望する利用者の情報を所定の様式に打ち出しできること。
2-82	二重登録のチェックができること。チェック項目として、氏名（カナ）、生年月日、電話番号等の基本項目が選択できること。
2-83	生年月日は西暦・和暦の違いでもチェックできる可能であること。
2-84	利用者の二重登録で2項目が合致したデータがある場合は、「二重登録の可能性があります。（以前の利用者コードNo.）」とのエラーを表示できること。
2-85	利用者検索の画面から登録画面へ遷移できること。
2-86	電話番号、氏名（カナ・漢字）、生年月日、利用者コードより利用者の簡易検索ができること。
2-87	利用者情報の詳細検索、項目間の複合検索ができること。
2-88	メールアドレスで利用者情報の検索ができること。
2-89	利用者検索結果の一覧表示では、氏名（漢字）、性別、生年月日、電話番号、住所などの基本項目が一行で表示できること。
2-90	利用者検索結果の一覧表示では、基本的な項目でソートができること。
2-91	利用者検索結果の詳細表示では、登録項目以外に、その利用者の現在の貸出状況と予約状況が表示できること。また状況一覧から資料を選択できることにより、貸出資料と予約資料の資料詳細表示ができること。
2-92	利用者検索結果の詳細表示では、貸出情報や予約情報の更新ができること。 ⇒不明返却（返却処理後に蔵書状態を一時不明にする。）・継続貸出・返却期限変更・紛失弁償中ステータスへの変更、取消などができること。
2-93	利用券の再発行処理ができること。
2-94	再発行確認のため、利用者詳細画面から再発行届を印刷できること。
2-95	利用券の紛失管理ができること。利用券を再発行するまでの間の一時的な処理で、無効区分として「紛失」のステータスがあること。
2-96	有効期限の設定ができること。（例：登録、更新日より3年間）
2-97	有効期限の更新を希望する利用者が Web-OPAC を通じて更新できること。また、本人確認証明の画像をアップロードできること。
2-98	有効期限が切れた利用者は、貸出／返却時に警告ができること。
2-99	有効期限の表示は、Web サービスでも表示ができること。
2-100	希望する利用者に対して、仮パスワードの自動設定ができ、Web-OPAC を使って利用者がパスワードの登録ができること。（例）仮パスワードはデフォルトで誕生日の月日4桁数字
2-101	利用者への通知メッセージの管理ができること。

2-102	登録した通知メッセージは、Web サービスでも表示／非表示が選択できること。
2-103	貸出停止、利用停止の管理ができること。(貸出停止：延滞 30 日 利用停止：延滞 120 日)
2-104	長期延滞している場合、バッチ処理等の自動により、貸出停止および利用停止の処理（延滞期間による自由設定可）ができること。
2-105	貸出停止および利用停止は長期延滞資料をすべて返却することにより自動解除ができること。
2-106	貸出停止および利用停止になった場合、Web での貸出状況、予約状況の確認のみはできること。
2-107	資料紛失弁償中の管理ができ、必要に応じて指定の様式(「紛失弁償届」)を出力できること。(現状：貸出資料を紛失した場合、資料のステータスを「紛失弁償」とする)
2-108	上記の場合、貸出状態を保持したまま、弁償猶予期間を加算して、返却期限を延長できること。(現状：1ヶ月先の返却期限を手入力)
2-109	督促管理ができること。
2-110	利用者ごとに、督促日・督促回数の記録が詳細にでき、その督促履歴を参照できること。
2-111	督促履歴は、資料が返却された場合は、クリアされること。
2-112	メール連携やCTI 連携での督促結果が、督促履歴に自動で反映されること。また手動での入力もできること。
2-113	督促連絡は、メールアドレスの登録状態を判別しメール連絡が優先されること。
2-114	利用者が予約棚を使用できるか管理するためのフラグ項目を用意できること。予約資料確保時にカウンターまたは予約棚の受け渡しを自動で判別できること。
2-115	奉仕規則を設定できること。
2-116	奉仕規則は、利用者資格、登録資格の組み合わせにより、以下の項目が設定できること。 <input type="checkbox"/> 館外貸出規則 (資料種別ごとの貸出冊数、貸出日数、延長回数) <input type="checkbox"/> 館内貸出規則 (資料種別ごとの貸出冊数、貸出日数) <input type="checkbox"/> 督促規則 (電話用、葉書用) <input type="checkbox"/> 延滞規則 (延滞日数) <input type="checkbox"/> 予約規則 (予約件数)
2-117	利用者情報の一括削除ができること。例えば、長期末利用者は「実質未登録者」として一括削除できること。
2-118	利用者情報の各項目・各区分ごと及びそれぞれの組み合わせによる帳票が用意されていること。
2-119	利用者の詳細画面で、現時点での貸出累積冊数と最終貸出日を表示できること。

2-120	資料検索の結果、書誌情報に対して予約入力ができること。予約入力のデフォルトが「書誌予約」であること。書誌データは一元管理ができること。また予約画面を表示させてから、資料の検索ができること。 ※資料検索画面で書誌情報を特定してから、予約入力ができること。
2-121	予約画面で利用者の検索ができること。
2-122	電話番号、利用者名（カナ／漢字）、生年月日からの利用者検索ができ、検索結果一覧から選択して利用者情報入力画面や貸出画面等に移行できること。
2-123	予約画面上の利用者名表示については、デフォルトの設定で表示／非表示を選択できるようになっており、かつ日常の操作中に切替えが行えること。
2-124	予約画面で利用者選択時には該当利用者の予約一覧（個人／家族情報の切替可能であること）が確認できること。また資料選択時には該当資料の予約者一覧（自館／全館の切替可能であること）が確認できること。
2-125	予約画面で利用者、資料それぞれ選択時にひと目で件数（利用者選択時は予約件数、資料選択時は所蔵数、発注数、予約者数）が把握できること。
2-126	発注中、未所蔵、貸出中、他館在庫等の書誌にも業務用端末から予約ができること。
2-127	未所蔵資料（市内に所蔵していない）に対する書誌予約の際は、警告ができること。
2-128	利用者資格別、資料種別ごとの予約冊数制限の設定ができること。
2-129	予約入力の際に、カレンダー表示により、予約受付日が任意に変更できること。
2-130	予約資料の状態表示が、以下のように明示できること。これはWebで利用者が予約状況を見るときも同じ表示であること。 所蔵の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・確保待ち（在架の場合）</li> <li>・返却待ち（貸出中の場合、何番目であるか順位表示もできること。）</li> <li>・他館で確保（予約資料が他館に返却された場合）</li> <li>・搬送中（同時に行き先表示がわかること 例：本籍「行徳」の本が、「中央⇒BM」とわかること。）</li> <li>・準備中（グループ予約であることがわかること。）</li> <li>・利用可能（同時に未連絡と連絡済の区別がわかること。）</li> </ul> 未所蔵の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・申込中</li> <li>・相互協力手配中</li> <li>・発注中</li> </ul>

	<p>取消しの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人取消</li> <li>・期限切れ</li> <li>・おことわり</li> </ul>
2-131	予約の受付館、受取館の変更ができること。
2-132	各クライアント端末の設置館、設置場所情報により予約の受付館＝受取館のデフォルト自動設定ができること。
2-133	予約受付館、受取館ごとに予約統計が集計できること。
2-134	<p>予約受取館の下位グループとして受取場所等が指定できること。</p> <p>(例1：受取館「BM」受取場所「各巡回ステーション名」)</p> <p>(例2：受取館「中央」受取場所「宅配」)</p>
2-135	予約日、予約時間で予約の提供順位を自動で決定でき、予約提供順位の管理ができること。また、手動で予約日・予約時間を指定するなどの方法で提供順位の任意変更(順番入れ替え)ができること。
2-136	予約有効期限の管理ができ、指定された有効期限までに確保できなければ予約を取消できること。
2-137	連絡方法の管理ができること。
2-138	<p>予約資料が準備できたことを連絡する方法が複数準備されており、連絡方法がコード化されていること。</p> <p>(例：「電話」「FAX」「メール」「葉書」「不要」など)</p>
2-139	連絡済みの管理ができること。
2-140	個々の予約情報に対して「未連絡」「連絡済」の情報を入力できること。
2-141	「連絡済」の場合は、連絡日を入力できること。
2-142	メール連絡は、「連絡済」フラグと連絡日の入力自動でできること。
2-143	CTIによる電話連絡は、「連絡済」フラグと連絡日の入力自動でできること。
2-144	取置期限の管理ができること。
2-145	連絡後の取置日数を設定しておくことで、取置期限を表示できること。これはWebで利用者が予約状況を見るときも表示できること。
2-146	連絡後の取置日数は日毎に任意に変更できること。
2-147	予約資料の取置期限は、開館カレンダーを参照して、自動設定ができること。また任意に変更できること。
2-148	検索結果の資料一覧から、資料を選択して一括で予約(上中下巻や全集など書誌を複数指定した予約)ができること。
2-149	「AとBの予約をして、どちらかを先に確保できた場合連絡が欲しい」という利用者の要望に応じることができること。また、その場合揃わなかった資料は、自動で予約が解除されること。

2-150	「AとBの予約をして、両方が確保できた場合連絡が欲しい。また、上下巻を順番に連絡が欲しい」という利用者の要望に応じることができること。
2-151	特定の資料コードの資料に対する予約ができること。（複本一覧から特定の資料コードを選択して予約ができること。）
2-152	所蔵館を選択して予約ができること。
2-153	すでに予約済みの場合や予約者本人に貸出中の資料に予約した場合には運用として、その予約を許可するかしないかを基本設定で定められること。
2-154	予約時にコメントが登録できること。（利用者との、または職員同士の連絡用に使用）
2-155	業務端末から予約の取消ができること。「利用可能」「搬送中」等、どの状態でも取消ができること。
2-156	業務端末から予約取消をした場合、予約取消理由区分を表示できること。
2-157	期限切れとして予約削除をする場合、予約取消理由区分と取消日を設定できること。
2-158	予約取消理由と取消日は、インターネットの利用状況（予約状況）で表示され、利用者も把握できること。
2-159	書誌別に予約状況表示とその更新ができること。
2-160	利用者別に予約状況表示とその更新ができること。
2-161	返却処理による予約確保ができること。貸出中、搬送等の資料は、返却処理をすることで予約順番どおりに利用者へ確保処理（他館受取は搬送処理が必要）ができること。
2-162	予約提供予定の資料を確保中に該当利用者の予約登録が削除された場合、なおかつ次の予約情報がある場合は、次の利用者に予約確保の割り当てができること。
2-163	予約確保された場合、レシートプリンターで「予約確保の搬送・連絡票」を打出すことができること。
2-164	「予約確保の搬送・連絡票」は、受取館名・利用者コード・利用者名・電話番号またはメールアドレス・連絡方法・書名・著者名など打出す項目の設定が選択できること。項目によって文字サイズを変えることができること。
2-165	館内 OPAC、インターネットや携帯等、Web サーバ経由の予約は、自動で予約承認ができること。自動承認された予約情報は、予約受付日時により、待ち順位が振られて順番に処理できること。
2-166	自動の予約承認は、リアルタイムまたは一日複数回の自動作業であること。
2-167	MARC を利用して、相互貸借（借用）資料の管理ができること。
2-168	書誌を簡易登録して、相互貸借（借用）資料の管理ができること。
2-169	相互貸借で資料を依頼した時には、予約状況で「手配中」と表示できること。
2-170	「手配中」の場合、どこの自治体図書館に、いつ依頼したのかを、確認できること。

2-171	相互貸借による借用図書が届いた際に、システムコード体系に合致した資料コードを付与することで、ローカル情報を付加し、通常の貸出・返却処理ができること。
2-172	相互貸借による借用図書が届いた際に、借用図書に貼付されている、別自治体図書館の(市川市のシステムコード体系に合致しない)資料コードを読み取る(または打鍵する)ことで、ローカル情報を付加し、通常の貸出・返却処理ができること。
2-173	相互貸借による借用資料のローカル情報には、分類、借用元、借用期限などを記録できること。 (現状:データ削除することで「図書館から借用館への返却」とみなしている。)
2-174	相互貸借資料については、利用者から図書館への返却と、図書館から借用館への返却を区別して管理できること。
2-175	相互貸借の借用資料の提供館、提供場所の設定ができること。
2-176	相互貸借資料返却後も、書誌データ単位で借用履歴が表示できること。(書誌データを検索した時に、所蔵情報とは別に、相互貸借履歴が参照できる。)
2-177	貸出管理帳票として以下の帳票を出力できること。 「貸出資料一覧表」「督促資料一覧表」「督促はがき(督促資料単票)」「予約督促一覧表」
2-178	貸出管理帳票類は、利用者コードの個別指定でも抽出できること。
2-179	督促関係の帳票類は、紛失弁償中資料を除いて抽出できること。
2-180	督促関係の帳票類は、メール督促分やCTI督促分(連絡完了分)を除いて抽出できること。
2-181	予約資料帳票として以下の帳票を出力できること。 「予約資料一覧表」「予約連絡一覧表」「予約連絡督促はがき(予約連絡単票)」「予約在架資料一覧表」「予約取消済一覧表」
2-182	予約資料帳票類は、予約処理日、資料確保日、利用可能日などの範囲指定で抽出できること。
2-183	予約資料帳票類は、利用者コードの個別指定で抽出できること。
2-181	予約資料帳票類は、予約処理館、予約受取館の個別指定、複数指定等で抽出指定できること。
2-182	予約資料帳票類は、予約状態の個別指定、複数指定で出力できること。
2-183	その時点での「予約が多い資料の一覧」を出力できること。
2-184	書誌予約されており、所蔵がなくかつ発注処理もされていないもの、また市内1冊所蔵で、資料の状態が書架不明や蔵書点検不明、長期延滞になっているものをピックアップしたリストを抽出できること。
2-185	予約があり、資料が書架に空いて利用できる状態にあるものを、書架から探すためのリスト(在架資料リスト)を館単位で出力できること。
2-186	「在架資料リスト」は、予約処理日の指定範囲、予約対象館、所蔵館を選択して、出力できること。
2-187	「在架資料リスト」は、所蔵場所ごとに、請求記号順にソートして出力できること。

### 3. 資料管理業務、蔵書点検

3-1	書誌データは、ほぼすべての項目において全文検索ができること。
3-2	200万冊以上の書誌データで「日本」やひらがな一文字で検索しても、20秒以内の検索結果が得られること（該当件数オーバーではない）。
3-3	書誌データは一元管理ができること。
3-4	所蔵の有無、発注の有無にかかわらず、書誌データをすべて一度に検索できること。
3-5	TRCのtooli検索の連携画面があり、所蔵資料検索としても利用できること。
3-6	図書・雑誌・視聴覚資料・障害者資料（資料識別子）の横断検索ができること。検索の範囲は、オペレータが自由に指定できること。
3-7	視聴覚資料は、CD・ビデオ・DVDと資料形態別に検索できること。
3-8	資料検索の対象は所蔵（館単位、全館）・未所蔵・全体の指定ができること。
3-9	自館所蔵資料を検索対象とする場合、自館での貸出の有無が検索一覧から確認できること。
3-10	書誌情報の項目から、検索キー項目を自由に選択できること。
3-11	<p>書誌情報の項目のうち、以下の項目は必ず検索項目とできること。</p> <p><input type="checkbox"/> タイトル（カナ・漢字） およびタイトルに関連する情報</p> <p><input type="checkbox"/> 責任表示（カナ・漢字）                    ”</p> <p><input type="checkbox"/> 出版者（カナ・漢字）                    ”</p> <p><input type="checkbox"/> 件名（カナ・漢字）                    ”</p> <p><input type="checkbox"/> NDC                                        前方一致のみ</p> <p><input type="checkbox"/> マークNo.                                前方一致のみ</p> <p><input type="checkbox"/> I S B N                                    前方一致のみ</p> <p>（雑誌の場合はI S S N、視聴覚資料資料の場合は発売番号）</p> <p><input type="checkbox"/> 内容紹介                                 フルテキスト検索であること。</p> <p><input type="checkbox"/> 著者紹介                                 フルテキスト検索であること。</p> <p><input type="checkbox"/> その他注記情報</p>
3-12	<p>資料検索の絞込項目は以下の項目であること。</p> <p><input type="checkbox"/> 出版年（期間指定ができること。）</p>

	<input type="checkbox"/> 所蔵館 <input type="checkbox"/> 所蔵場所 <input type="checkbox"/> 資料区分 <input type="checkbox"/> 統計分類区分
3-13	<p>ローカル情報の項目のうち、以下の項目は必ず検索項目にできること。</p> <input type="checkbox"/> 資料コード <input type="checkbox"/> 分類記号（請求記号1段目） <input type="checkbox"/> 図書記号（請求記号2段目 郷土資料の場合） <input type="checkbox"/> 巻冊記号（請求記号3段目 視聴覚資料資料の場合） <input type="checkbox"/> 別置記号 <input type="checkbox"/> 資料区分 <input type="checkbox"/> 統計分類区分
3-14	書誌情報の検索項目において、検索の一致条件（前方一致、中間一致、完全一致、後方一致）の選択ができること。
3-15	各検索項目の掛け合わせ検索（AND、OR、NOT）ができること。
3-16	5項目まで掛け合わせ検索ができること。OPACは10項目まで掛け合わせ検索ができること。
3-17	同一項目の掛け合わせでも検索ができること。（例）書名×書名×書名
3-18	書名検索の場合、書名・副書名・叢書名・巻の書名・内容の書名（内容細目）・新刊案内の内容紹介抄録、CDの場合は曲名など、どこまで書名の検索対象とできるか、または自由に制御できること。
3-19	著者名検索の場合、著者名・巻の著者名・被伝者・個人件名・内容の著者名（内容細目）、新刊案内の著者名紹介など、どこまで著者名の検索対象とできるか、または自由に制御できること。
3-20	出版者検索の場合、出版者・発売者・製造元なども検索対象にできること。
3-21	書誌情報と所蔵資料のローカル情報を掛け合わせた検索ができること。
3-22	検索補助手段が用意されており、これを使用しての検索ができること。（例：ワタシ=ワタクシ、電算機=コンピュータなど）
3-23	異体字辞書が用意されており、これを使用しての検索ができること。（例：斉藤=齋藤=齋藤、龍=竜など）
3-24	異体字辞書の追加・更新ができること。
3-25	異体字辞書の管理は一元管理できること。
3-27	ハングル文字、中国語の繁体字・簡体字での検索ができること。

3-28	全検索項目での検索ができること。
3-29	OPAC 検索の場合、検索結果一覧または詳細画面で、どの項目でヒットしたかを識別可能な表示ができること。
3-30	<p>検索時に以下の検索語の読み替えができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ひらがな、カタカナで検索して同じ結果が得られること。</li> <li><input type="checkbox"/> 濁点、半濁点、長音符、ブランク、その他記号 ⇒付けても付けなくても 同じ結果が得られること。</li> <li><input type="checkbox"/> 拗音、促音 ⇒文字が大きくても小さくても、同じ結果が得られること。(アルファベットの大文字・小文字も同様)</li> <li><input type="checkbox"/> 助詞 「ハ」→「リ」、「へ」→「エ」、「ヲ」→「オ」</li> <li><input type="checkbox"/> チヅ 「チ」→「ジ」、「ツ」→「ズ」</li> <li><input type="checkbox"/> バ行 「ヴァ」→「バ」、「ヴイ」→「ビ」、「ヴ」→「ブ」、「ヴェ」→「ベ」、「ヴォ」→「ボ」</li> </ul>
3-31	外国人著者名を検索するときに著者名転置：姓名、名姓のどちらからでも気にすることなく検索ができること。
3-32	典拠を参照して検索ができること。
3-33	典拠管理されている項目は、書名・著者名・出版者・分類・件名であること。
3-34	典拠管理されている項目は典拠データの検索、典拠表示画面へ展開できること。
3-35	典拠データを選択して検索キー指定画面の入力域にコピーして検索できること。
3-36	典拠データを使用しての書誌検索の可否（する／しない）を選択できること。
3-37	<p>検索キー値一覧が参照できること。</p> <p>(例) 著者名で“赤川”と入れた場合、著者名での赤川何某のキー値一覧と該当件数が表示され、あいまいな記憶での検索の場合、参照できること。</p>
3-38	<p>単一項目のカナ前方一致検索で文字数の少ない場合は、メッセージ画面を表示させて、確認ができ、検索文字数の指定は変更可能であること。</p> <p>(例) 「カナ一文字で検索しようとしています。よろしいですか？」</p>
3-39	検索条件の「条件指定の記録」ができ、前回の検索条件と検索結果を検索履歴として保存できること。
3-40	検索履歴は画面展開しても保存されていること。
3-41	検索条件の履歴を使用して、再検索ができること。
3-42	検索結果の該当件数が数秒でわかること。検索数の上限は設けないこと。
3-43	該当件数がある一定数を越えた場合、検索結果一覧を表示するか否かを問うメッセージ画面が表示されること。
3-44	該当件数がある一定数を越えない場合は、自動的に検索結果一覧を表示できること。

3-45	検索結果一覧表示は1書誌1行で簡易表示であること。1ページに表示する件数を選択できること。
3-46	<p>検索結果の一覧表示項目は以下のとおりであること。また、一覧表示項目は、その並びを任意に変更できること。</p> <p><input type="checkbox"/> 資料識別子 (図書・雑誌・視聴覚資料・障害者資料など)</p> <p><input type="checkbox"/> 書誌情報 … タイトル、責任表示、出版者、出版年、資料形態、ISBN</p> <p><input type="checkbox"/> タイトルは、書名、巻次、版表示、副書名、叢書名、シリーズ名、シリーズ巻次、各巻書名、各巻副書名、各巻巻次などタイトル関連情報をすべて含む。</p> <p><input type="checkbox"/> 所蔵情報 … 総資料数、うち貸出中の数</p> <p><input type="checkbox"/> 予約情報 … 全館予約件数</p> <p><input type="checkbox"/> 発注情報 … 全館発注数</p>
3-47	除籍資料の表示の可否 (する/しない) をあらかじめ選択できること。
3-48	除籍資料を非表示とした場合、資料数表示からも除くことができること。
3-49	表示順序は書名順、著者順、分類順などの設定が可能であること。
3-50	表示順序は、書名、シリーズ、著者名、出版者、出版年(昇順、降順)、NDCの項目で並び変えができること。
3-51	検索結果一覧を印刷、かつCSVファイルとして出力できること。
3-52	検索結果の一覧から1書誌を選択して書誌登録画面、蔵書追加登録、発注画面、予約画面など他の業務画面へ展開できること。
3-53	雑誌を検索する場合、親書誌 (雑誌タイトル書誌) のみとするか、子書誌 (雑誌巻号書誌) の内容までを検索対象とするか、選択できること。
3-54	雑誌を検索する場合で、子書誌 (雑誌巻号書誌) の内容までを検索対象とした場合、検索結果一覧画面では、親書誌 (雑誌タイトル書誌) が先頭に表示されること。親書誌 (雑誌タイトル書誌) と、子書誌 (雑誌巻号書誌) の判別が画面を展開しなくても把握できること。
3-55	雑誌名の結果表示は、資料 (該当誌名) 一覧及び巻号一覧画面が2段階で表示できること。
3-57	巻号一覧では、発行日付の新しいものから指定巻号へのジャンプ機能があること。
3-58	巻号一覧では、発行日での昇順、降順の並べ替えができること。
3-59	雑誌の特集名でヒットした場合の結果表示では、雑誌の巻号まで特定できること。
3-60	<p>検索結果の詳細表示は、書誌情報と所蔵情報を一画面で表示できること。</p> <p>※所蔵情報とは、複本一覧のことである。</p>
3-61	所蔵情報は、1資料コード1行で簡易表示であること。
3-62	所蔵情報は、1画面に表示する件数は10件程度でページ送りができること、またはスクロールバーでブラウズできること。

3-63	所蔵情報は、貸出情報の更新と予約情報の更新が、常にデータベースに反映できていること。
3-64	書誌情報と所蔵情報においては、現在の発注情報の表示ができること。またはワンタッチで発注画面に展開できること。
3-65	書誌情報と所蔵情報においては、内容細目の表示ができること。またはワンタッチで内容細目画面に展開できること。
3-66	詳細表示される書誌項目は、MARCの全タグ項目を表示できること。または自由に選択できること。
3-67	書誌情報の表示は、目録規則に準じた目録カード形式と、項目別に表示する項目形式の2種類が選択できること。
3-68	所蔵情報における資料コード一覧（複本一覧）は、検索処理館の資料を先頭に、後は館別順に表示できること。
3-69	所蔵情報、発注情報は1資料コード1行の簡易表示で以下の項目が表示できること。 <input type="checkbox"/> 資料コード、所蔵館、所蔵場所、請求記号、禁帯出、 <input type="checkbox"/> 別置記号、付属資料 <input type="checkbox"/> 資料の状態、状態明細（貸出中ならば返却期限、発注中ならば発注日など） <input type="checkbox"/> 相互貸借資料は借入元図書館名。
3-70	検索結果の詳細画面から他の業務画面へ展開ができ、以下の情報の追加・変更・削除ができること。 <input type="checkbox"/> 書誌情報、所蔵情報、内容細目・目次情報、発注情報、予約情報 <input type="checkbox"/> 画像情報、リンク情報
3-72	貸出情報、予約情報から貸出利用者や予約中利用者などの利用者詳細画面へ展開できること。
3-73	TRC-MARC（図書館流通センターが作成、販売する書誌データ等）を Tooli からダウンロードして取り込むことができること。
3-74	TRCの新刊MARC-Tタイプ（UTF8版）のすべての項目の取り込みができること。
3-75	TRCの新刊MARCのメンテナンスデータの取り込みができること。
3-76	TRCの視聴覚資料-MARC（Tタイプ）の取り込みができること。
3-77	TRCの視聴覚資料-MARCのメンテナンスデータの取り込みができること。
3-78	TRCの視聴覚資料-MARC（Tタイプ）から提供されるマークデータの分類記号ではなく市川市立図書館用の分類として取り込みができること。
3-79	メンテナンスデータは、MARC番号をキーに塗り替えることができること。
3-80	TRCの内容細目および目次情報ファイルのすべての項目の取り込みができること。
3-81	TRCの内容細目および目次情報のメンテナンスデータの取り込みができること。
3-82	TRCの雑誌MARC（タイトル情報、巻号情報、目次情報）の取り込みができること。
3-83	TRCの人名典拠ファイルの取り込みができること。
3-84	TRCの学習件名ファイルの取り込みができること。

3-85	Toolii からダウンロードした書誌情報に内容細目情報または目次情報がある場合、一緒に取り込みができること。
3-86	Toolii からダウンロードした書誌情報に学習件名ファイルがある場合、一緒に取り込みができること。
3-87	TRC-MARC 以外の書誌データについても、マーク種別をコード明示して、取り込みができること。⇒Japan-MARC など
3-88	TRC-MARC が提供する洋書マークが登録できること。
3-89	TRC-MARC タイプ（新刊マーク、メンテナンスマーク、ローカルマーク、雑誌マーク（親／巻号／目次／メンテナンスマーク））が自動でマーク登録がおこなえること。
3-90	公開されている青空文庫のテキストデータを一括登録できること。
3-91	書誌情報のすべての項目において可変長レコードが基本であること。
3-92	書誌データの追加登録・修正・削除ができること。
3-93	書誌の簡易登録ができること。 ⇒タイトル、著者名、出版社、分類など必要最低限の書誌項目をあらかじめ決めておき、これらの項目の入力のみで、書誌を簡単に登録できること。
3-94	書誌の詳細登録ができること。
3-95	書誌作成の際に、「簡易」、「標準」、「詳細」というように、登録モードを使い分けることができること。
3-96	目録作成の際に、一度に表示する項目名を制御できること。
3-97	目録作成は、ユニコード対応であり、多言語での登録ができること。⇒ハングル文字、中国の簡体字・繁体字、キリル文字が入力・登録ができ、検索キーとして生成できること。
3-98	多言語での目録作成は全角・半角の区別なくできること。
3-99	多言語での目録作成をする場合、タイトルや著者のカナ読み振りの項目を 要／不要 を選択できること。
3-100	目録作成における書誌項目の追加が容易にできること。
3-101	TRC-MARC の改版にも対応ができ、タグ項目を容易に増やすことができること。
3-102	書誌データの複写が容易にできること。
3-103	書誌データを複写する際に、複写元の「修正」画面なのか、複写しての「新規追加」画面のどちらか判別ができること。
3-104	複写する際に、マーク番号、ISBN 等の固定項目は、ブランクにできること。
3-105	目録作成の際、二重登録チェックができること。
3-106	二重登録の検知タグ項目は、マーク番号、ISBN 等、選択ができること。
3-107	書誌データの削除ができ、削除する際に画面でメッセージでの警告ができること。

3-108	項目追加が容易にできること。TRC-MARC にないローカルルールが追加でき、データ移行時に継承できること。
3-109	項目の繰返し登録ができること。
3-110	項目削除ができ、削除する際に警告の表示・非表示が選択できること。
3-111	タグコード名と項目名の表示ができること。
3-112	基本は1項目1行の表示であるが、著者注記や内容注記のように文章のようなデータを入力する際は、入力域を拡張して、文章全体を把握しながら入力ができること。
3-113	表記項目に対するカナ、ローマ字の自動読み振りができること。
3-114	自動読み振りされたカナ、ローマ字項目に対して、適宜修正ができること。
3-115	マークが無い状態で簡易書誌登録をした場合、後でその書誌の TRC マークが登録された時には、あらかじめ書誌を同定するための項目（マーク番号、ISBN 等）を指定しておくことにより、それらが一致した場合に簡易書誌にマークが上書きされるように設定できること。
3-116	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、所蔵登録画面を表示させ、所蔵登録が容易にできること。
3-117	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、予約入力画面を表示させ、予約登録ができること。
3-118	発注画面からファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、目録作成画面を表示させ、書誌登録ができること。
3-119	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、内容登録画面を表示させ、内容細目登録や目次情報登録ができること。
3-120	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、初出典拠登録の確認画面を表示させ典拠登録ができること。
3-121	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、画像登録画面を表示させ、表紙画像登録や関連する画像の登録ができること。
3-122	目録作成の画面から、ファンクションキーまたはマウスのワンクリック操作で、リンク登録画面を表示させ、リンク先アドレスや参照するサーバの階層アドレス等の登録ができること。
3-123	リンク先アドレスは、リンク切れを定期的に一括で調べることができること。
3-124	内容細目および目次情報の登録ができること。 ⇒内容細目：全集や短編集などの場合、収録されている個々の作品名 ⇒目次情報：専門書、学術書などの場合、章や節のタイトル
3-125	上記の場合、以下の項目が登録できること。 <input type="checkbox"/> 作品タイトル名、作品の著者名（複数登録できること。）

	<input type="checkbox"/> 分類、件名、作品に対する注記事項 <input type="checkbox"/> ページ数
3-126	目次情報を登録する場合、第一章、第一節、第一項などの階層構造が明確に表示できるように登録できること。
3-127	ある書誌データの、既に登録した内容細目データの一覧において、順序変更が容易にできること。
3-128	TRC が作成する所蔵情報（ローカルデータ）の取り込みができること。 <input type="checkbox"/> ローカルデータ（発注情報消し込みのローカル） <input type="checkbox"/> 図書抽出マーク（MARC+ローカル）TRC の新刊 MARC-T タイプ
3-129	所蔵登録の画面では、登録しようとしている書誌情報の基本的な項目が判別できること。
3-130	資料コードのチェックによる問題がなければ以下のローカルデータ入力項目をすべて表示できること。 <input type="checkbox"/> 資料コード <input type="checkbox"/> 館コード、所蔵場所コード <input type="checkbox"/> 発注先コード <input type="checkbox"/> 受入区分、受入年月日 <input type="checkbox"/> 予算区分、価格 <input type="checkbox"/> 資料区分、統計分類 <input type="checkbox"/> 刊行年 <input type="checkbox"/> ステータス区分（利用可、不明、除籍等の状態） <input type="checkbox"/> 所蔵注記 <input type="checkbox"/> 持禁区分、別置記号 <input type="checkbox"/> 請求記号（分類）
3-131	上記の情報以外に多様なローカルデータ項目を有しており、表示／非表示の制御ができること。 <input type="checkbox"/> 最終返却期限 <input type="checkbox"/> 貸出回数 <input type="checkbox"/> ステータス変更日 <input type="checkbox"/> 旧所蔵館コード、旧所蔵場所コード
3-132	ローカルデータ項目の入力は、セレクトボックスやリストボックス等で簡易に選択できること。
3-133	ローカルデータ項目を入力する際は、あらかじめデフォルトを設定できること。

3-134	ある二つの特定項目において、あり得ない間違っ組み合わせの入力がされないように、制御できること。 (例：館コード⇒場所コード) (例：資料区分⇒統計分類)
3-135	所蔵注記項目があり、入力した文言の 表示／非表示が制御できること。
3-136	IC タグが読み込めない資料を管理するためのフラグ項目を用意できること。予約資料確保時にカウンターまたは予約棚の受け渡しを自動で判別できること。
3-137	複数冊数（複本）を続けて所蔵登録できること。
3-138	入力したローカルデータは、所蔵データ一覧にて確認できること。
3-139	追加したローカルデータは、所蔵データ一覧から選択して、修正もできること。
3-140	書誌登録画面を介さない、所蔵修正のみの画面が用意されていること。
3-141	他の業務画面において、所蔵一覧から資料を選択して、所蔵修正の画面に行くことができること。 (例：貸出⇒資料詳細⇒所蔵修正、発注⇒資料詳細⇒所蔵修正)
3-142	同じ項目を修正する複数の資料が手元にある場合、あらかじめ修正内容（変更項目と変更後データ）を指定して、資料コードを連続してスキップすることにより、一括修正ができること。
3-143	一括修正変更時に、未返却資料が含まれていた場合、スキップすることにより返却処理の可否（する／しない）が選択できること。
3-144	一括修正変更の除籍時に、スキップすることにより複本チェックの可否（する／しない）が選択できること。
3-145	一括修正変更時に、変更前情報の一時保存処理ができること。
3-146	同じ項目を修正する複数の資料が手元にない場合、ポータブル端末やSQL等であらかじめ抽出した、資料コードのみのCSVファイルを呼び出して、修正内容（変更項目と変更後データ）を指定して、一括修正ができること。
3-147	除籍の際に、所蔵注記項目に除籍理由等が追加できること。 (例：改訂版あり、文庫の完全版あり、不揃い、全集に収録済み…等)
3-148	永年保存扱いの雑誌（あらかじめ保存年限のコードで指定）を除籍する場合、警告メッセージを表示できること。
3-149	長期不明資料は、条件指定により一括除籍ができること。（例：蔵書点検不明3回目）
3-150	長期にわたる未返却資料は、条件指定により一括除籍ができること。（例：10年延滞資料）⇒貸出状態を保持したまま除籍／強制返却して即除籍 の選択ができること。
3-151	保存期限経過雑誌は、条件指定により一括除籍処理ができること。⇒但し貸出済み、予約があるものは除くことができること。
3-152	登録済みの所蔵データを確認しながら強制削除（蔵書ファイルからの抹消）できること。
3-153	すでに除籍済みの所蔵データを削除（蔵書ファイルからの抹消）できること。

3-154	仮登録の所蔵データを強制削除（蔵書ファイルからの抹消）できること。 （例：資料コードの体系や桁数が違う相互協力資料の読み込みミス等を削除する）
3-155	除籍資料の表示／非表示を、端末単位で選択できること。
3-156	除籍資料は、館内 OPAC やインターネットからの検索では表示しないこと。
3-157	「除籍資料リスト」を打ち出すことができること。打出し項目は次の項目であること。資料情報として、タイトル、巻次、著者、出版社、シリーズ、分類 など
3-158	組替処理ができること。 ⇒組替とは、所蔵登録済みの資料コードに対して書誌データを変更できること。
3-159	組替後の書誌データ呼び出しは、書誌番号や MARC 番号の打鍵入力、ファンクションキーの操作またはマウスのワンクリックで資料検索画面を展開し、検索結果一覧から選択できること。
3-160	組替前と組替後の書誌データを、画面で確認しながら組替処理ができること。
3-161	予約データがある場合でも、組替処理ができること。
3-162	予約確保されている場合は、確保解除してから、組替処理ができること。
3-163	張替処理ができること。または、所蔵単位で「弁償」のステータスがあること。 ⇒張替とは、汚破損や紛失等、何らかの行為により使えなくなった古い資料コードから、新しい資料コードに、所蔵データを移し替えること。
3-164	合本処理ができること。
3-165	合本された個々のデータ項目でも検索ができること。
3-166	合本統合した資料データから、合本された個々の資料データが確認できること。
3-167	合本された個々の資料は、蔵書点検対象外にできること。
3-168	資料区分、統計分類などのコード指定の際に、貸出統計に含む／含まない の選択ができること。（例：視聴覚ブースのヘッドホン、インターネットブースのキー、ロッカーの鍵等は、通常の貸出統計に含めない。）
3-169	館や場所コード単位で、予約の確保を除外する区分が用意されており、資料が確保できる状態になっても除外できること。 例：ぴあパーク妙典の所蔵
3-170	雑誌の登録を管理する画面があること。
3-171	雑誌のタイトル登録は、「目録作成」画面で行えること。
3-172	雑誌の「巻号情報登録」の画面があること。

3-173	上記の巻号情報に対して、個々に所蔵登録ができること。
3-174	上記の巻号情報に対して、個々に特集情報登録や目次情報登録ができること。
3-175	図書館流通センター（TRC）が作成販売する雑誌マークのすべてのタグ項目が取り込みできること。
3-176	雑誌の巻号情報、所蔵登録の際には、各雑誌に表記されている雑誌コードで呼び出しができること。
3-177	雑誌の保管期限を雑誌単位で登録できること。
3-178	雑誌の保管期限を利用して、ステータスを一括除籍できること。但し永年保存は除籍対象外。
3-179	現時点での「購読雑誌タイトル一覧」を所蔵館別／全館 に出力できること。
3-180	雑誌の最新巻号が所蔵登録された場合は、自動的にステータスを持出禁止にするような処理ができること。
3-181	上記の最新号の貸出禁止については、任意に解除できること。
3-182	雑誌の最新巻号は、インターネットの予約ができる／できないを選択できること。
3-183	雑誌の巻号情報登録の際、登録済みの巻号が表示され、前号の情報から類推して巻号を予測し容易に登録できること。
3-184	ある雑誌データに対して、巻号情報データを登録している場合、現在追加しているデータの入力域と、既に登録した巻号情報データの一覧が、同一画面で参照できること。
3-185	既に登録した巻号情報データの一覧において、順序変更が容易にできること。
3-186	図書の発注、受入を管理する画面があること。
3-187	選書会議の決定内容が、書誌ごとに登録でき、発注画面および書誌詳細画面で表示できること。（全端末で選書情報の共有化ができること。）
3-188	以下のように主な選定結果内容をコード化して登録ができ、詳細理由も追加入力できること。 <input type="checkbox"/> 選定外 ⇒ 予算制約上、選定外としたもの。 <input type="checkbox"/> おことわり ⇒ 収集方針対象外、図書館に所蔵すべきではない等。 <input type="checkbox"/> 現物 ⇒ 現物選定をする予定、選定結果待ち等。
3-189	上記の選定結果内容は、リスト抽出ができること。
3-190	発注画面から資料検索画面を呼び出すことができ、書誌データを特定してから発注をかけることができること。
3-191	マーク番号、ISBN（視聴覚資料資料の場合は発売番号）をダイレクトに入力して発注ができること。
3-192	新刊全点案内等、バーコードがある場合には、バーコードの読み取りによる発注ができること。
3-193	発注画面にて現在の発注状況が把握できること。 （表示項目する項目は、発注番号、発注日、発注数、発注先、発注方法など）

3-194	発注画面からワンタッチで所蔵状況を参照できること。 (表示項目する項目は、所蔵館、所蔵場所、貸出状況、貸出履歴、予約件数など)
3-195	発注画面からワンタッチで予約者状況を参照できること。 (表示する項目は、予約件数、予約者一覧、確保状況など)
3-196	発注時に書誌を新規登録してから発注をかけることができること。
3-197	発注時に入力データの初期値を表示させることができること。
3-198	発注先区分が10以上設定できること。(見計い・書店など)
3-199	発注時にローカルデータを付加しても、しなくても発注ができること。
3-200	発注時にコーナーなどの別置記号の付与ができること。
3-201	任意に発注情報を変更できること。(発注情報変更・取消・事故伝・保留など)
3-202	発注で同じ本を複数冊発注した場合、1冊ごとに発注番号を付与して管理できること。
3-203	中央館・地域館どこからでも、どの館の発注もできること。 (発注業務を行う時、館・場所による制限がないこと。)
3-204	発注情報の確認をするためのリストとして「発注一覧表」を打出すことができること。
3-205	書店注文用の「発注短冊」を打出すことができること。
3-206	発注があるのに受入されていないデータを確認するためのリストとして「未納資料一覧表」を打出すことができること。
3-207	所蔵資料1冊に対し、予約が5件以上ある資料のリストを打ち出せること。
3-208	発注に関する帳票は、以下の条件で抽出できること。 <input type="checkbox"/> 発注日、納入予定日の範囲指定 <input type="checkbox"/> 発注館の個別指定／全館指定 <input type="checkbox"/> 受入区分(消耗・備品)の個別指定／全部指定 <input type="checkbox"/> 発注先の個別指定／複数指定／全部指定 <input type="checkbox"/> 発注状態の個別指定／複数指定／全部指定
3-209	TRCの新継続扱い資料等の、受入の継続管理ができること。
3-210	資料費の予算管理画面があること。年度、館、費目(備品・消耗品・その他)、資料区分別に予算管理ができること。
3-211	予算年度については、いつの時点の発注から年度をかえるか、指示できること。
3-212	年度途中においても現時点での「予算執行状況表」を打出すことができること。

3-213	発注番号からの受入処理ができること。
3-214	受入画面から資料検索ができ、資料一覧から受入資料名を選択できること。
3-215	非発注資料（発注処理をしていない資料）の受入登録ができること。
3-216	受入は発注のデータと連動し、受け入れた時点で発注データは消去できること。
3-217	受入資料の資料コードを登録することにより、以下の関連情報がすぐに更新されること。 <input type="checkbox"/> 発注情報の削除と蔵書情報の更新 <input type="checkbox"/> 予約がある場合、予約確保されて予約情報を更新
3-218	TRC が作成するローカルデータ（発注情報に対するローカル）、図書抽出マーク（MARC+ローカル）を、ステータスを「未検収」として取り込みができること。
3-219	発注時に請求記号を指定した場合は、受入時の請求記号に転写できること。
3-220	「検収」画面があり、TRC よりローカルデータの一括登録処理されたデータと、現物との確認チェックを行うことができること。
3-221	検収処理は、資料コードの読み取りで、ローカルデータの全項目が表示でき、確認作業ができること。また内容変更も容易であること。
3-222	ハンディターミナル、ノートパソコンや IC 機器等の多様な機器を使用しての、蔵書点検ができること。
3-223	蔵書点検は、オンライン/オフラインの選択ができること。
3-225	オフラインで蔵書点検をする場合、使用する機器側にデータを蓄積できる簡易なプログラムを導入できること。通常のバーコードタッチリーダーや IC アンテナ等を使用して、資料コードを順次蓄積できること。 この蓄積したデータを、テキストファイルや CSV ファイルとして保存し、これを図書館システム側で取り込む際に変換できること。
3-226	オフラインで蔵書点検をする場合、データの受け渡しは、LAN 接続、USB 接続等で容易にできること。
3-227	ノートパソコンやポータブル端末等でスキャン作業をする場合、クライアント端末で使用するバーコードタッチリーダーをそのまま利用できること。
3-228	蔵書点検は、館単位、所蔵場所単位だけでなく、資料区分や統計分類単位まで細かく分けてできること。
3-229	更新前にスキャンデータの「エラーリスト一覧表」を打ち出すことができること。
3-230	蔵書点検後の「エラーリスト一覧表」には、以下のエラー資料を打ち出すことができること。 <input type="checkbox"/> 搬送中資料、貸出中資料 <input type="checkbox"/> 不明資料、除籍資料 <input type="checkbox"/> 予約で利用可能な資料 <input type="checkbox"/> 所蔵場所が違う資料

3-235	「エラーリスト一覧表」にあがった搬送中資料のうち、本籍館にあるにもかかわらず搬送受付されていない資料は、更新作業後に、自動で搬送受付処理ができること。（なお予約確保処理の可否（する／しない）の選択ができること。）
3-236	「エラーリスト一覧表」にあがった貸出中資料は、更新作業後に、自動で返却処理ができること。（なお予約確保処理の可否（する／しない）の選択ができること。）
3-237	「エラーリスト一覧表」にあがった不明資料は、更新作業後に、自動で不明解除処理ができること。（なお予約確保処理の可否（する／しない）の選択ができること。）
3-238	更新後に「不明資料一覧」（不明回数指定）を打ち出すことができること。
3-239	市内1冊の資料で、予約者がいて、今回の蔵書点検で不明になった場合は、「蔵書点検不明で予約者がいる資料一覧」として、帳票を打ち出すことができること。
3-240	更新後に不明連続（現状は不明3回）による「除籍予定資料一覧」を打ち出すことができること。
3-241	資料管理帳票として以下帳票を出力できること。 「新着資料一覧表」「除籍資料一覧表」「無効資料一覧表」「資料利用回数別一覧表」「図書原簿」
3-242	資料管理帳票類は、請求記号の範囲指定、別置記号等で抽出できること。
3-243	資料管理帳票類は、資料区分、統計分類の個別指定、複数指定で抽出できること。

#### 4. 統計業務

4-1	図書館経営の事業報告として活用できる蔵書統計、利用統計（貸出・予約）等、定形の統計帳票がメニュー方式で用意されていること。例えば日本図書館協会の毎年の「公共図書館調査票」形式で容易に数値が得られる等。
4-2	各帳票は定型的書式で、日次・月次・年次と測定期間、測定項目の一貫性があること。
4-3	すべての統計帳票において、全館／館別 の出力を選択できること。
4-4	すべての統計帳票において、印刷する／画面で見る の選択ができること。
4-5	すべての統計帳票において、PDF 作成が選択できること。
4-6	すべての統計帳票において、CSV 出力が選択できること。
4-7	必要に応じた統計データを収集・計算・編集できること。
4-8	蔵書統計・利用者統計などは、随時打ち出しができること。
4-9	以下の帳票を打ち出しできること。 「年齢一地区別登録者統計表」「分類別蔵書統計表」「館別蔵書統計表」「時間帯別利用統計表」「日別利用統計表（日報／月報／年報）」「利

	「利用者資格別利用統計表」「月別利用統計表（年報単位）」「ベストリーダー」「ベストリクエスト」「年齢一分類別貸出統計表」「月別一地区別貸出統計表」「自動車図書館資料別貸出統計表（ステーション別）」「自動車図書館年齢別貸出統計表（ステーション別）」
4-10	統計帳票は、RPA のアプリケーションを使用して毎月指定する日に自動出力ができること。
4-11	統計データの蓄積は単年度ごとではなく、同一システムの使用中はすべて削除しなくても良いこと。
4-12	SQL で直接データベースから統計データを抽出して集計ができること。
4-13	SQL で抽出する場合、どのファイルに何のコードがあるか、コード名がどの項目に該当するのか、開示できること。（例：kasfil⇒貸出ファイル、tkbr⇒統計分類 等）
4-14	SQL で抽出する場合、基本的なコマンド式とマニュアルを用意できること。
4-15	ODBC 接続による Access 等への連携機能があり、統計データを抽出して集計ができること。
4-16	ODBC 接続による Access 等で統計を得る場合に、各ファイル名を初期テーブルとして設定できること。
4-17	ODBC 接続による Access 等で統計を得る場合に、コード名がどの項目に該当するのか、初期設定できること。
4-18	Web サービスの各ページのアクセス件数が日別／月別に集計できること。
4-19	Web-OPAC の検索回数が日別／月別に集計できること。
4-20	携帯及びスマートフォン用 OPAC の検索回数が日別／月別に集計できること。
4-21	OPAC における検索キーワードのリストアップや集計ができること。

## 5. 利用者に関するサービス(OPAC,CTI 等)

5-1	予約資料が「利用可能」状態となった場合、予約者に対して、メールで自動連絡ができること。（利用者登録情報に、メールアドレスが登録されていることが前提）
5-2	予約資料が「利用可能」状態となった場合、予約者に対して、CTI で電話の自動連絡ができること。（利用者登録情報に、電話番号が登録されていることが前提）
5-3	Web での予約受付時に、連絡方法区分（メール、電話、携帯電話、不要など）を利用者が選択できること。
5-4	連絡方法の初期値はメール連絡にできること。
5-5	自動連絡の対象外フラグを立てることができ、「連絡可能」の利用者のみ自動連絡ができること
5-6	IC 予約棚コーナーのある館は、予約資料の予約受取場所が「予約棚」、棚番号がセットされた資料のみ対象として自動連絡（メール及びCTI）できること。

5-7	自動連絡をする頻度は、利用可能になったら一日一回のバッチ処理で抽出できること。また、CTI は手動で任意にオートコールイベントを作成できること。
5-8	CTI の自動連絡は、CTI 発信用カレンダーを参照して日毎や曜日単位での自動連絡スケジュールを設定できること。（例：第2月曜日には自動連絡しないように設定する等）
5-9	メールの自動連絡は、開館カレンダーと連携して日毎や曜日単位での自動連絡スケジュールを設定できること。また、メールする頻度は、館単位で設定できること。
5-10	メールでの自動連絡の場合、利用可能になった予約単位ごとにメールを送信できること。
5-11	バッチ処理でメール連絡の場合、当該利用者の予約資料が数冊「利用可能」状態の場合、一回の連絡にまとめて冊数分の予約情報を付記して、メール送信ができること。
5-12	バッチ処理でCTI 自動連絡の場合、当該利用者の予約資料が数冊「利用可能」状態の場合、一回の連絡にまとめて、冊数を付記して、電話連絡ができること。
5-13	予約連絡のメール本文（またはCTI 音声）にデータ抽出日を付記できること。
5-14	予約連絡のメール本文（またはCTI 音声）に受取館とその電話番号を付記できること。
5-15	予約連絡のメール本文に、取置期限を付記できること。
5-16	メール本文に付記する取置期限については、自動計算または期日入力ができること。
5-17	予約連絡のメール本文に、必要に応じて適宜、追記連絡ができること。
5-18	CTI で電話連絡の場合、利用者の電話番号に着信した時点で「連絡完了」とみなすことができること。 また、着信した時点で本人確認を行ない電話ボタン入力を受け付けることで「連絡完了」をみなす方式に切り替えることもできること。
5-19	CTI で電話連絡の場合、リトライ回数とリトライまでの間隔時間を設定できること。
5-20	CTI で電話連絡の場合、リトライアウト（1日のリトライ回数を繰り返した結果、連絡完了できないもの）になった場合は、エラーリストで出力または画面で把握できること。
5-21	メールおよびCTI 連携で予約の自動連絡をした場合、予約連絡済みのフラグを自動で立てることができること。
5-22	予約連絡済みのフラグは、適宜、オペレーターによる修正が可能できること。
5-23	予約連絡済みのフラグが立った日は、「予約連絡日」として保持し、インターネットの利用状況で表示され、利用者も把握できること。
5-24	利用者が予約資料を借りた場合、メール連携に転送された予約連絡データは、自動で消し込みができること。
5-25	予約取置期限が過ぎても引取りがなかった資料の数を各館毎に把握でき「予約期限切れ資料一覧」を打ち出すことができること。
5-26	メールおよびCTI で電話連絡の場合、取置期限間近の該当利用者を抽出し、予約取置期限切れ連絡ができること。

5-27	期限切れで予約解除した場合、メールでその旨通知ができること。
5-28	予約取置期限が迫った場合、メールでその旨通知ができること。
5-29	利用者の希望により、返却期限に近づいた貸出資料があることを通知するメールを発信できること。返却期限の何日前に送信するかを利用者ごとに設定できること。
5-30	OPAC は、ほぼすべての項目において全文検索ができること。
5-31	OPAC の検索は、200 万冊以上の書誌データで「日本」やひらがな一文字で検索しても、20 秒以内で検索結果一覧が表示できること。（該当件数オーバーではないこと）
5-32	OPAC は、 図書・雑誌・視聴覚・障害者資料ごとに、または選択指定して検索ができること。
5-33	OPAC は、視聴覚資料は、CD・ビデオ・DVD と資料形態別に検索ができること。
5-34	OPAC の検索項目、絞り込み項目は多様であり、利用者が指定して選択できること。
5-35	OPAC による書誌情報の検索項目において、検索の一致条件（前方一致、中間一致、完全一致、後方一致）の選択ができること。
5-36	OPAC で各検索項目の掛け合わせ検索（AND、OR、NOT）ができること。
5-37	OPAC では、典拠参照、異体字辞書などの利用者が検索する際の補助手段が多様であり、利用者が指定して選択できること。
5-38	OPAC では、検索した文字列に関連の深い語句を逐次予測して表示するサジェスト機能を有していること。また検索時にサジェスト機能を有効にするかどうか選択できること。
5-39	サジェスト機能を有効にした場合、表示される予測キーワードは所蔵している資料から表示できること。
5-40	OPAC でハングル文字、中国語の繁体字・簡体字での検索ができること。
5-41	OPAC 検索の一覧での表示件数を利用者がセレクトボックスで選択できること。（例：20 件、50 件、100 件）
5-42	OPAC の検索一覧は、書名、著者名、分類等の基本的な項目でソートができること。
5-43	OPAC の検索結果の一覧表示は、1 書誌 1 行の簡易表示できること。
5-44	OPAC の検索結果一覧で、同一書名がある場合、区別できるデータ項目が表示できること。
5-45	OPAC 検索結果の該当件数、ページ数と現在の表示件数をわかりやすく表示できること。
5-46	OPAC の検索一覧では、次ページ、前ページへのボタンまたはリンクがあり、ページ指定のジャンプもできること。
5-47	検索結果（一覧／詳細）で、CSV 出力ができること。出力する項目は図書館と協議の上、設定できること。
5-48	検索結果（一覧／詳細）で、メール送信ができること。表示する項目やメールフォーマットは図書館と協議の上、設定できること。
5-49	OPAC の資料詳細画面は、書誌情報、所蔵情報、内容細目ごとに整理されて 1 画面でスクロール表示ができること。
5-50	OPAC の書誌情報は、簡易画面と詳細画面の切替ができること。詳細画面ではより多くのデータ項目を利用者に開示できること。

5-51	OPAC の所蔵情報では、特定の館や所蔵場所を表示しないように任意に制限できること。
5-52	OPAC の所蔵情報では、長期延滞資料を検索結果に表示しないように任意に制限できること。
5-53	OPAC の所蔵情報では、除籍資料、不明資料等は表示しないように任意に制限できること。
5-54	OPAC の資料詳細画面では、次書誌、前書誌へのボタンまたはリンクがあること。
5-55	OPAC での検索結果に対して、利用者が図書館利用券番号（以下、利用券 ID と略す）とパスワード（以下、PW と略す）で予約できること。
5-56	OPAC 検索結果の詳細画面では、著者名、叢書名、NDC 分類、件名等の基本的な項目にハイパーリンクが貼られており、クリックして再検索ができること。
5-57	OPAC 検索結果を著者や分類などでグループ化し選択することで絞込みができること。絞込みを解除して別のグループで絞り込むことが容易にできること。（ファセットブラウジング機能）
5-58	選択した資料と関連して、よく利用される資料を表示できること。（レコメンド機能）
5-59	OPAC 検索結果の書誌情報で、amazon 表紙画像(書影)を表示できること。
5-60	資料検索結果一覧及び検索結果詳細画面の書誌情報で、図書館が用意した表紙絵画像を表示できること。
5-61	OPAC 検索結果で選択した資料と関連して、よく利用される資料を表示できること。（レコメンド機能）
5-62	OPAC 検索結果の書誌情報で、特定サイト (amazon 等) へのアフェリエイトの表示等ができること。
5-63	OPAC 検索結果の書誌情報で、バナーへのリンク表示ができること。（現状：青空文庫の電子テキストページへのバナーリンク）
5-64	OPAC 上の警告メッセージは、すべて字数制限がなく、文言を任意に変更ができること。
5-65	OPAC で簡易検索ができること。（「かんたん検索の窓」が用意できること）
5-66	OPAC の簡易検索は、全項目検索だとノイズが多いため、検索項目の任意選択ができること。
5-67	OPAC の簡易検索では、検索語を空白で区切って入力することにより、掛け合わせ検索ができること。
5-68	OPAC 上で検索項目を指定しての詳細検索ができること。
5-69	CGI プログラム等により所蔵検索へのリンク生成ができること。または用意できること。
5-70	OPAC 上で分類検索や NDC による分類表（100 区分⇒1000 区分）からの検索ができること。
5-71	OPAC 上で MRDF を使用しての検索ができること。（MRDF は、NDC 分類番号に対する該当項目名の相関索引表。件名や主題項目に該当する言葉を入れると、それに該当する分類番号に変換して検索できる。）
5-72	OPAC 上で独自分類表を使用しての検索ができること。なおこのための分類表テーブル（Excel）は市が提供する。 （現在は地域行政資料、視聴覚資料分類表等を作成）

5-73	OPAC 上で雑誌のタイトル一覧表示ができること。タイトル五十音順に一覧が表示され、タイトルを選択してクリックすることにより巻号一覧が表示できること。
5-74	OPAC 上で雑誌のタイトル一覧表示が所蔵している館別に表示できること。タイトルを選択してクリックすることにより巻号一覧が表示できること。
5-75	OPAC に新着資料一覧があること。また、ジャンル別に分けて一覧表示ができ、新着資料一覧に載せる資料種別ごとに期間を指定できること。
5-76	新着資料一覧に載せた資料を限定した検索ができること。
5-77	新着資料の RSS 配信ができること。 ※RSS リーダーが利用者のパソコンにインストールされていることが前提
5-78	新着資料をブログパーツとして、他のホームページから参照できること。
5-79	OPAC に現時点で予約件数が多い資料を一覧表示できること。
5-80	OPAC に、ある期間内で予約件数が多かった資料一覧(ベストリクエスト)の表示ができること。
5-81	OPAC に、ある期間内で貸出件数が多かった資料一覧(ベストリーダー)の表示ができること。
5-82	ベストリーダーの RSS 配信ができること。※RSS リーダーが利用者のパソコンにインストールされていることが前提
5-83	ベストリクエストの RSS 配信ができること。 ※RSS リーダーが利用者のパソコンにインストールされていることが前提
5-84	ベストリクエスト、ベストリーダーの期間は、任意に変更できること。
5-85	OPAC に、図書館が選んだ資料をおすすめの本として表示できること。
5-86	OPAC に、ある特定資料の一覧表示ができること。例えば資料区分、統計分類、請求記号等で抽出して登録しておく、またはそれぞれの区分で検索できること。
5-87	OPAC 検索画面でのメッセージや警告文は、すべて字数制限がなく、その文言を任意に変更できること。
5-88	OPAC 画面のセレクトボックスの項目名、ボタン類は字数制限がなく、文言を任意に変更できること。
5-89	OPAC 画面では、利用者にサイト上の現在位置を的確に知らせるために、パンくずリストの表示や主要ページのリンク表示等が示されていること。
5-90	Web-OPAC は Web コンテンツのアクセシビリティに関する JIS X8341-3 に対応していること。
5-91	スマートフォン・携帯電話用の所蔵検索のページおよび Web サービスメニューが用意されていること。

5-92	図書館が Web で提供する個人を特定した予約や貸出延長、その他のサービスは、利用券 ID・PW を使用して、ログイン・ログアウトする方式（マイページ方式）であること。
5-93	上記ログイン時に、利用券 ID が、桁数エラー、チェックデジットエラー、未登録、該当がない、利用券が無効、利用停止などの場合は、それぞれ警告メッセージを表示できること。
5-94	上記ログイン時に、パスワード（PW）が違う場合は、警告メッセージを表示できること。
5-95	ログイン後に、利用券 ID の有効期限を表示できること。
5-96	利用券 ID の有効期限が切れている場合は、デフォルトでログイン可／不可を選択できること。
5-97	利用券 ID の有効期限が切れている場合は、来館して手続きが必要等の、警告メッセージを表示できること。
5-98	ログイン後に、一定時間以上操作処理がない場合、自動的にログアウトできること。
5-99	利用券 ID・PW でログインした時点で、以下のようなメッセージを画面に表示できること。また、必要に応じてメッセージの修正や追加ができること。 <input type="checkbox"/> 延滞資料があります。 <input type="checkbox"/> 予約資料が利用可能となっています。 <input type="checkbox"/> 有効期限が切れています。お近くの図書館で更新手続きを受けてください。 <input type="checkbox"/> 図書館からメッセージがあります。
5-100	ログイン後は、検索結果から一括予約ができること。（買物かご的な機能）また、検索一覧から直接一括予約をすることもできること。（リスト選択機能）
5-101	利用者が簡単に、予約のグループ化をできること。（予約状況一覧、または買物かごから、利用者が自由に選択。）
5-102	利用者の資格区分（仮登録・個人・団体・学校・相互貸借の協力館、隣接市個人）で予約対象者を任意に制御できること。また資料種別ごとの予約冊数制限の設定ができること。
5-103	利用者の無効区分（紛失・貸出停止）で Web 予約を制御できること。
5-104	延滞資料の有無、及び延滞日数で、Web 予約を制御できること。
5-105	ログイン後に予約する時には、利用者が自由に予約受取館を選択できること。また、受取館の下位グループとして受取場所（BM ステーション、配本所、宅配等）が指定できること。
5-106	OPAC の予約画面では、必要に応じて、予約受取館や受取場所毎に、メッセージをポップアップで表示、または画面に表示できること。（例 1：「宅配」を選択した場合、「有料。詳しくは宅配サービス利用案内をごらんください。」） （例 2：「自動車図書館」で「〇〇ステーション」を選択した場合、「次回巡回日は、〇月〇日となります。」）

	(例3:蔵書点検にかかる図書館を受取館として選択した場合、「〇月〇日から10日間蔵書点検となります。この間、予約の受取が遅れる場合があります。」)
5-107	ログイン後に予約する時には、利用者が任意で予約連絡手段の選択ができること。
5-108	上記の連絡手段で電話を選択した場合、登録済みの電話番号の確認画面が表示できること。(例:「現在、ご登録されている電話番号047-3**-****です。」)
5-109	上記の連絡手段でメールを選択した場合、メールアドレスの確認画面が表示されること。また、メールアドレスが2つ以上登録されている場合は、どちらかに連絡/全部に連絡の選択ができること。
5-110	OPACでの予約手続終了後には、予約状況画面を確認する旨メッセージが表示できること。
5-111	予約冊数超過の場合は、警告メッセージを画面表示し、超過の入力を抑止できること。
5-112	所蔵していない資料の予約(未所蔵予約)ができる機能がOPAC上に用意されていること。
5-113	ログイン後、利用者が自分の予約状況を確認できること。
5-114	上記の予約状況の一覧では、タイトル、受取館、資料識別子、予約日、状況(予約待順位や資料の貸出可能状況など)を表示できること。
5-115	上記で確保され利用可能状態になっている場合は、確保日、資料コードを表示できること。
5-116	上記で連絡済みの場合は、連絡日、連絡手段、取置期限を表示できること。
5-117	上記の予約資料の状況表示は、「承認待ち」「返却待ち」「順番待ち」「棚探し待ち」「発注中」「相互貸借手配中」「他館確保」「搬送中」「利用可能」と、利用者にわかりやすく的確で細かく表示ができること。
5-118	利用者がWeb予約した資料については、本人がOPAC上で受取館変更、予約の取消を行うことができること。
5-119	窓口で申請した予約においても、OPAC上で利用者が受取館・受取場所の変更、予約の取消が任意にできること。(「相互貸借手配中」は除く等、一部不可でも良い。)
5-120	利用者はOPAC上で予約取消履歴を確認できること。(取置期限内に来館せず職員が削除、利用者本人による取消削除を明確に区別できること)また、予約取消履歴の一覧では、タイトル、受取館、資料識別子、予約日、削除日、削除理由を表示できること。
5-121	予約の取置期限切れで職員が予約の情報の削除を行なった場合、その旨と連絡日、連絡手段、取置期限までOPAC上に表示できること。
5-122	ログイン後、利用者が自分の貸出状況を確認できること。
5-123	上記の貸出状況一覧では、タイトル、貸出館、貸出日、返却期限日、状況、次に予約者の有無を表示できること。また、返却期限を過ぎているものは、色を別にするなど、一覧画面で明確に区別できること。
5-124	上記の貸出状況一覧から、貸出延長ができること。但し以下のものは貸出延長ができないように制御できること。 □ 返却期限がすでに過ぎている資料(延滞資料)

	<input type="checkbox"/> 他の自治体図書館より借用した資料（相互貸借資料） <input type="checkbox"/> 次に予約者がいる資料（予約資料） <input type="checkbox"/> 持禁資料、 <input type="checkbox"/> 課題図書等の特定の期間のみ延長を禁止する資料 <input type="checkbox"/> 紛失弁償中資料
5-125	Webでの貸出延長回数を制御できること。
5-126	利用者自身の貸出履歴を参照できること。ただし、初期設定は参照不可で、利用者が操作して参照可能に設定した場合のみ参照可能になること。
5-127	【WEB/館内 OPAC】利用者自身が貸出履歴を印刷できること。
5-128	【WEBOPAC】利用者自身が貸出履歴をファイル出力できること。
5-129	OPAC上で、利用者がパスワード（PW）の新規申込ができること。（館内 OPAC は除く） なお新規申込ができる条件として <input type="checkbox"/> 予約申込をする資格を有する（中学生以上の市内在住在勤在学者である）こと。 <input type="checkbox"/> 利用登録期間が有効期限内であること。 <input type="checkbox"/> 延滞資料がないこと。
5-130	OPAC上で、利用者がパスワード（PW）の変更ができること。
5-131	パスワード（PW）は英数字指定か、数字のみか、あらかじめ指定できること。また桁数の指定ができること。
5-132	予約かご方式で予約できること。予約かごの情報はログアウトしても消えずに残り、次回以降のログイン時に利用できること。
5-133	検索した結果や貸出中の資料などを利用者自身がグループ化して登録するブックリスト（仮想本棚）を作成できること。ブックリストから選択して予約できること。
5-134	ログイン後、利用者がメールアドレスの登録ができること。入力に際しては、入力間違いを防ぐため、利用者にメールアドレスを2回入力させる、または登録の際に確認画面が表示されること。またメールアドレスを登録した場合、確認メールの通知受取ができること。
5-135	メールアドレス登録が2つ以上できること。
5-136	図書館から送ったメールが不着の場合、メールアドレスの無効/有効を、通知メッセージ等の手段で、利用者に Web サービス画面上で伝えることができること。
5-137	予約連絡手段のデフォルトは、電話またはメールのどちらかを選択できること。
5-138	ログイン後は、利用者が図書館からの通知メッセージを確認できること。

5-139	OPAC から利用者がレファレンス申込することができ、利用者が申込んだレファレンスは、業務画面で確認ができること。
5-140	レファレンス申込みの際に、メールアドレスが登録されている場合は、メールでレファレンス回答できること。
5-141	メールマガジン配信機能があること。
5-142	メールアドレス登録や変更の際に、メルマガ配信申込のチェックボックスがあること。
5-143	上記の配信希望有無に限らず、メールアドレス登録者に「図書館からの重要なお知らせ」を一斉配信できること。
5-144	ある特定の項目とキーワードを複数登録することにより、新着資料から必要な情報のみをメール送信できるサービス(SDI サービス)ができること。
5-145	利用者の仮登録申請ができること。
5-146	利用者の更新申請ができること。また、本人確認証明の画像をアップロードできること。
5-147	スマートフォンサイトから利用者自身がログイン後、利用者カードのバーコード表示ができること。 ※利用者カードを持っていなくても貸出処理ができること。
5-148	図書館の館内にはタッチディスプレイおよび光学マウス（有線）での操作が簡単にできる OPAC が用意されていること。
5-149	タッチディスプレイは、ひらがな/カタカナ/アルファベットの入力切替ができること。
5-150	館内 OPAC はタッチパネルを使用した漢字変換による検索もできること。
5-151	館内にある OPAC の検索結果の詳細画面には、「場所」「印刷」「予約」等のボタンが表示できること。
5-152	上記の「場所」ボタンをクリックすると、フロア案内図が表示され、本の場所を案内図上に明示できること。
5-153	資料の場所をフロア案内図で表示する場合に、資料の分類を参照して、棚番号が表示できること。資料の分類と棚番号のテーブルは、任意に変更ができること。
5-154	館内にある OPAC の検索結果の詳細画面には、“棚をご確認ください。”、“見つからない場合は、職員にお尋ね下さい。”、“書庫にあります。書庫出納票をカウンターにお持ち下さい。”などのメッセージが表示されること。文言は随時変更可能であること。
5-155	「印刷」ボタンをクリックすると、書誌情報と所蔵情報がレシート印刷できること。また、資料の分類を参照して、棚番号も印字されること。利用可能な所蔵が複数ある場合は、どの所蔵情報を印刷するのか利用者が選択できること。
5-156	書誌・所蔵情報のレシートは、館単位、所蔵場所単位に、文面を変更できること。
5-157	書庫に所蔵している資料のレシートは「書庫出納票」とタイトル明示して、“〇〇カウンターにお持ちください。”等の表示ができること。
5-158	書庫に所蔵している資料コードのバーコード表示ができること。
5-159	「予約」ボタンは、検索した OPAC のある館で、利用できる資料がある場合は、表示/非表示が選択できること。

5-160	フロア案内図は、館単位、フロア単位で作成できること。
5-161	検索結果のフロア案内図での場所表示は、その場所の点滅強調や色塗り等で明確にできること。
5-162	<p>フロア案内図での場所表示は、以下のコードで指定できること。</p> <p><input type="checkbox"/> 所蔵場所</p> <p><input type="checkbox"/> 資料区分      ・統計分類      ・別置記号</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号1段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号2段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号3段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p>※範囲指定とは、215～219、ア～オ、等。</p> <p>※あいまいな表現とは、J33*、W*** 等。</p> <p>※複数指定とは、675、336.3、757 と列記する等。</p>
5-163	<p>フロア案内図での棚番号は、以下のコードで参照テーブルを作成してできること。</p> <p><input type="checkbox"/> 所蔵場所</p> <p><input type="checkbox"/> 資料区分      ・統計分類      ・別置記号</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号1段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号2段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p><input type="checkbox"/> 請求記号3段目（範囲指定やあいまいな表現、複数指定ができること）</p> <p>※棚番号1→X913.6/ア～オ、X914.6/ア～オ、X915.6/ア～オ、X916/ア～オ、X917/ア～オ</p>
5-164	フロア案内図の画像差し替え、場所表示の変更などのメンテナンスは、それぞれの館でできること。
5-165	検索したOPACのある館で、利用できる資料が複数冊あり、それぞれ場所が異なる場合は、複本一覧から選択することにより、所蔵それぞれのフロア案内図を表示、またはメッセージ案内ができること。
5-166	上記は、館内にあるWeb-OPAC以外でも表示され、利用者が自宅パソコンでA4サイズ等で印刷できること。また、フロア案内図や検索した該当資料の書誌情報や請求記号のラベルも、同じ紙面に印刷できること。
5-167	<p>CTIのアウトバウンド機能を活用して、以下のことができること。</p> <p><input type="checkbox"/> 督促連絡機能：システムパッケージより、督促データを取得して、電話での自動連絡を行うこと。利用者名については、音声合成変換を行うこと。</p> <p><input type="checkbox"/> 予約連絡機能：システムパッケージより、利用可能の予約データを取得して、電話での自動連絡を行うこと。利用者名については、音声合成変換を行うこと。</p>

	<input type="checkbox"/> 予約取置期限切れ案内：システムパッケージより、予約の取置期限切れ間近のデータを取得して、電話での自動連絡を行うこと。利用者名については、音声合成変換を行うこと。
5-168	<p>CTI のインバウンド機能を活用して、以下のことができること。</p> <input type="checkbox"/> 休館日・開館時間案内機能：当日が開館／休館しているか案内できること。開館の場合、何時から何時まで開館しているかアナウンスできること。当月と来月の休館日もアナウンスできること。また、蔵書点検、月末整理、年末年始等の休館理由についての案内ができること。
	<input type="checkbox"/> 内線転送機能：開館時間帯のみ希望する内線に電話を転送できること。また、電話操作に失敗した場合も所定の内線に電話を転送できること。
	<input type="checkbox"/> 予約状況問い合わせ機能：予約確保できている資料があるかどうか、音声により予約状況をアナウンスできること。また予約取消及び予約受取館変更も番号で選択できること。書名については、音声合成変換を行うこと。
	<input type="checkbox"/> 貸出状況問い合わせ機能：貸出している資料と返却期限等、音声により貸出状況をアナウンスすること。また貸出延長も番号で選択できること。書名については、音声合成変換を行うこと。
5-169	機械の音声合成を生成する際のユーザ辞書を編集できること。また、その際にアクセントの指定ができること。
5-170	すべてのアナウンスが、機械の音声合成でもできこと。
5-171	アナウンス内容の変更が容易にでき、肉声の音声ファイルも適用できること。なお、肉声の音声ファイルを適用する場合は、アナウンスをブロックごとに分けて、変更を容易にできること。
5-172	CTI のインバウンド機能として、着信時に図書館からのお知らせ情報を再生できること。
5-170	アウトバウンドの機能は、日ごと、曜日ごとに発信する時間を設定でき、また容易に変更ができること。
5-171	アウトバウンド機能は、自動連絡して繋がらなかった場合に、再度連絡（リトライ）の回数を設定できること。またリトライまでの間隔時間の設定および変更ができること。
5-172	アウトバウンド機能を使ってその日のうちに連絡がつかなかった場合は、翌日そのデータが改めて抽出されること。また手動で督促連絡を行なった場合のみ、翌日に持ち越して自動的に発信できること。
5-173	<p>CTI からの予約や督促の連絡は、利用者の電話番号に着信した時点で利用者情報に「連絡済」にできること。</p> <p>また、着信した時点で本人確認を行ない電話ボタン入力を受け付けることで利用者情報に「連絡済」とする方式に切り替えることもできること。</p>
5-174	CTI サーバへの督促データの受け渡しは、返却期限の期間による抽出、館単位の抽出、次に予約がある資料のみの抽出、これらを掛け合わせてできること。

5-175	CTI サーバへの予約データの受け渡しは、利用可能として連絡対象であるデータを、館単位あるいは館を複数選択して一括抽出できること。
5-176	CTI サーバにて、電話連絡する前に電話番号毎の架電リストを表示し、手動で電話番号を指定して発信停止にできること。
5-177	督促連絡および予約連絡は、「貸出冊数及び貸出館毎の返却期限切れ冊数」もしくは「予約冊数及び受取希望館毎の予約取置冊数」をアナウンスできること。また、それぞれの問い合わせ先館名とその電話番号も案内できること。
5-178	督促連絡の場合は、データ抽出された日付を元に“〇月〇日〇時〇分時点でお返しが遅れています”等とアナウンスできること。
5-179	予約連絡の場合は、データ抽出された日付を元に“〇月〇日〇時〇分時点でご用意できています”等とアナウンスできること。
5-180	CTI での督促連絡の結果は、システムパッケージに督促履歴として反映できること。
5-181	CTI での予約連絡の結果は、システムパッケージに予約連絡の履歴として反映できること。
5-182	アウトバウンドのアナウンスは、繋がった場合に、読み上げる回数を設定できること。
5-183	システムパッケージからの CTI への督促データの取得は、以下の項目であること。 <input type="checkbox"/> データ抽出日時 <input type="checkbox"/> 利用者番号    利用者名    利用者名ヨミ（読み上げに必要） <input type="checkbox"/> 電話番号 <input type="checkbox"/> 貸出館コード <input type="checkbox"/> 貸出トータル冊数 <input type="checkbox"/> 貸出バーコード番号 <input type="checkbox"/> 次予約有無フラグ
5-184	システムパッケージからの CTI への予約データの取得は、以下の項目であること。 <input type="checkbox"/> データ抽出日時 <input type="checkbox"/> 利用者番号    利用者名    利用者名ヨミ（読み上げに必要） <input type="checkbox"/> 電話番号 <input type="checkbox"/> 受取館コード <input type="checkbox"/> 予約トータル冊数 <input type="checkbox"/> 予約受付番号 <input type="checkbox"/> 予約取置期限（予約取置期限間近案内用）
5-185	CTI での受取館・受取場所または貸出館・貸出場所、問い合わせ場所と連絡先電話番号は、アナウンステーブルを作成でき、自動でアナウンスできること。随時変更も可能であること。また、アナウンステーブルの変更は随時可能であること。館・場所の追加も適宜できること。

5-186	CTI の処理状況をオートコールイベント単位で一行一件で簡易表示できること。 <input type="checkbox"/> イベント作成日時 <input type="checkbox"/> イベント名称 <input type="checkbox"/> オートコール開始日時 <input type="checkbox"/> オートコール終了日時 <input type="checkbox"/> 対象件数 <input type="checkbox"/> 連絡済み件数 <input type="checkbox"/> 状況ステータス
5-187	オートコールイベントを選択し、オートコール結果を以下の条件で編集し一覧表として表示もしくは印刷できること。 <input type="checkbox"/> 館指定 <input type="checkbox"/> 発信種別（予約取置案内／予約取置期間近案内／返却督促） <input type="checkbox"/> 個別状況（全て／完了／リトライ待機中／発信中／未発信／発信停止） <input type="checkbox"/> 最終発信結果（全て／連絡済み／連絡済み以外／話中／不在／着信後相手切断／着信後システム切断／回線不良）
5-188	オートコールイベント単位で、発信結果データを削除できること。
5-189	発信結果データは、ある一定期間保持でき、統計等に反映できること。
5-190	インバウンドの場合、はじめに当日が休館日／開館日をアナウンスできること。（例：“こちらは市川市中央図書館です。本日は休館日／開館日です。”）もし、休館日の場合は、休館理由のアナウンスまでできること。 （例：“本日は休館日です。毎月月末の平日は館内整理日として休館しています。”）
5-191	インバウンドの場合、開館時間のアナウンスをすること。インバウンドのカレンダーまたはシステムパッケージのカレンダーを参照して、日ごとに開館時間のアナウンスを変更できること。 （例：“本日は、10時から夜7時半まで開館しています。こどもとしょかんは、夕方6時までとなります。”）
5-192	インバウンドでは、長期休館にあたる場合、休館理由と休館期間のアナウンスができること。 （例：“本日は休館日です。中央図書館は、6月20日から7月3日まで、本の点検期間のため休館しています。”）
5-193	インバウンドのコールフローでは、「休館日案内」「予約確保照会」「予約取消」「予約受取館変更」「貸出状況照会」「貸出延長」「内線転送」のサービスメニューが用意できること。
5-194	インバウンドのサービスメニューのうち「休館日案内」「内線転送」以外のサービスを選択された場合には、図書館利用券番号をプッシュさせたあとで、任意の4桁番号を必要とすること。この番号はあらかじめ設定できること。
5-195	インバウンドサービスにダイヤル回線でかけてこられた場合でも、ダイヤルパルスで電話操作ができること。

5-196	アナウンスの途中でも、番号選択をして、次のアナウンスに進むことができること。
5-197	番号を間違えて押した場合は、すべて図書館事務室の内線電話に繋がるように設定できること。ただし、開館時間外は内線転送しないこと。 (例：“間違った番号を押されました。事務室にお繋ぎします。いましておまちください。”) )
5-198	内線転送先数や電話番号は、任意に変更できること。
5-199	CTI のインバウンドの各階層では、「アナウンスの繰り返し」と「戻る」の値番号を統一できること。
5-200	CTI のインバウンドの利用統計として「日別利用件数一覧表」「時間帯別利用件数一覧表」を表示もしくは印刷できること。
5-201	メール連絡は、ネットワークを経由したデータの受け渡しができること。
5-202	メール連絡機能を活用して、以下のことができること。 <input type="checkbox"/> 督促連絡機能：システムパッケージより、督促データを取得して、メールでの自動連絡を行うこと。利用者名については、音声合成変換を行うこと。 <input type="checkbox"/> 予約連絡機能：システムパッケージより、利用可能の予約データを取得して、メールでの自動連絡を行うこと。利用者名については、音声合成変換を行うこと。 <input type="checkbox"/> お知らせ配信機能 <input type="checkbox"/> メールマガジン配信機能 <input type="checkbox"/> SDI サービス
5-203	メール定型本文の変更が容易にできること。
5-204	メール生成は、日ごと、曜日ごとに時間を設定できること。
5-205	メール生成プログラムへの督促データの受け渡しは、返却期限の期間による抽出、館単位の抽出、次に予約がある資料のみの抽出、これらを掛け合わせてできること。
5-206	メール生成プログラムへの予約データの受け渡しは、利用可能として連絡対象であるデータを、館単位あるいは館を複数選択して一括抽出できること。
5-207	メール生成プログラムへの予約データの受け渡しは、抽出する時間を決めて、自動で一括処理できること。
5-208	システムパッケージがメール連絡する前に、督促連絡対象者から資料の返却処理がなされた場合、システムパッケージからの自動更新処理でメールの消しこみができること。
5-209	システムパッケージがメール連絡する前に、予約連絡対象者が予約資料の貸出処理を受けた場合、システムパッケージからの自動更新処理でメールの消しこみができること。

5-210	督促メールおよび予約連絡メールは、冊数分の情報を明記した上で、書名を列記できること。
5-211	メールでの督促連絡の場合、転送された日付を元に“○月○日時点、…〈タイトル〉が返却されていません”と明記できること。
5-212	メールでの予約連絡の場合、転送された日付を元に“○月○日時点、…〈タイトル〉がご用意できています”と明記できること。
5-213	メールでの督促連絡は、システムパッケージに督促履歴として反映できること。
5-214	メールでの予約連絡は、システムパッケージに予約連絡の履歴として反映できること
5-215	メール生成する場合、督促データの取得は、以下の項目であること。 <input type="checkbox"/> 利用者番号    利用者名 <input type="checkbox"/> メールアドレス 以下の項目は、冊数分明記すること <input type="checkbox"/> 貸出館    資料コード    タイトル名    返却期限
5-216	メール生成する場合、予約データの取得は、以下の項目であること。 <input type="checkbox"/> 利用者番号    利用者名 <input type="checkbox"/> メールアドレス <input type="checkbox"/> 取置期限    (システムパッケージ側でカレンダー設定、または転送時に設定) 以下の項目は、冊数分明記すること <input type="checkbox"/> 受取館    資料コード    タイトル名    次の予約者有無
5-217	メール機能には、受取館・受取場所または貸出館・貸出場所、問い合わせ場所と連絡先電話番号は、テーブルを作成でき、メール署名前に明記できること。随時変更もできること。 (例：“お問い合わせの電話番号は、〇〇図書館 047-320-3346 です。”) (例：関連施設が貸出館の場合、問い合わせ図書館は「中央」という場合もある。)
5-218	上記のテーブル変更は随時可能であること。館・場所の追加も適宜できること。
5-219	メール送信した予約連絡及び督促データの処理状況を、利用者単位で確認が可能なこと。
5-220	処理状況は、以下の項目を追加して、一行一件で簡易表示できること。 <input type="checkbox"/> 登録日時    (メール生成をした日時) <input type="checkbox"/> ステータス    (未送信、送信済) <input type="checkbox"/> 連絡日時 (=送信日時) <input type="checkbox"/> 連絡済みフラグ    (連絡完了)

5-221	以下の項目で、督促連絡／予約連絡／全件 でメール送信データを検索できること。 <input type="checkbox"/> 登録日 <input type="checkbox"/> 連絡日 <input type="checkbox"/> ステータス (未送信、送信済) <input type="checkbox"/> 利用者番号 利用者名 利用者名ヨミ <input type="checkbox"/> メールアドレス <input type="checkbox"/> 連絡済みフラグ (連絡完了)
5-222	メール送信データのステータス変更ができること。
5-223	メール送信データの削除が 個別／一括 でできること。
5-224	メール送信データは、ある一定期間保持でき、統計等に反映できること。
5-225	メールが不着で戻ってきた場合、メールアドレスが無効であるという項目 (無効フラグ) があり、これを随時変更できること。
5-226	無効フラグが立った場合、利用者が Web サービスを利用するときに通知する、または職員により利用者が把握できること。
5-227	メールアドレスが無効 (無効フラグが立っている) の場合、二つ目のメールアドレスが登録されていれば、そのアドレスに送信できること。
5-228	メールアドレスが全て無効 (無効フラグが立っている) の場合、CTI での連絡に切り替えができること。
5-229	メール送信の機能別利用統計の作成ができること。
5-230	メールアドレスの有効登録者統計の作成ができること。
5-231	市川市が指定する図書館内の Web-OPAC で、市川市が指定する Web ページ・データベース並びに国立国会図書館デジタルコレクション等の閲覧がリンクを登録することでできること。
5-232	上記の Web-OPAC のうち、別に指定する機器 (中央図書館 3 台、行徳図書館 1 台、市川駅南口図書館 2 台を予定) からはコインベンダー式印刷機を利用して、利用者自身でプリントアウトができること。
5-233	Web-OPAC で閲覧可能とする Web ページ・データベース並びに国立国会図書館デジタルコレクション等については、中央図書館で一元管理できること。
5-234	市川市が指定する図書館内の Web-OPAC で、市川市が作成するデジタルアーカイブの閲覧が可能であり、指定する機器からはコインベンダー式印刷機を利用して、利用者自身でプリントアウトができること。
5-235	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについては、国立国会図書館に申請する管理用端末 (別途指定する業務用端末を兼用機器とする予定) から閲覧することができ、管理用端末からカラー対応印刷機にプリントアウトができること。

5-236	図書館内に設置する Web-OPAC は、利用者のインターネット閲覧後は、利用前の設定に戻ることに。
-------	--

## 6. 書庫出納管理システム

6-1	館内 OPAC から印刷された書庫出納レシートについて、当日分を受付番号及び出納状況を画面で確認できること。
6-2	利用者が書庫出納を依頼する時に冊数を入力して、受付番号を付与できること。
6-3	受付番号レシートは、職員と利用者控えの2枚出力の選択もできること。また、レシートを再発行できること。
6-4	書庫出納資料が用意できた際に、画面から確保の設定ができること。
6-5	確保済みになった受付番号は、サインージ表示用の CSV に出力され、サインージ画面に速やかに表示できること。
6-6	利用者への資料提供後、該当の受付データを完了状態とし、サインージの表示を消すことができること。
6-7	一度確保状態とした受付番号の確保解除ができること。
6-8	受付情報は、「発行」「保留」「確保」「完了」「解除」「取消」の状態変更が簡易な操作でできること。
6-9	受付時に入力した冊数は修正ができること。
6-10	提供が遅延している、保留している等の受付状態が色で判断できること。
6-11	受付状態毎にソートを行い、完了や取消はリストの下部に表示され発行や確保といった受付情報が上位に表示できること。
6-12	日付の範囲指定を行い、書庫出納の日別利用統計が出力できること。統計では、受付件数、受付冊数、完了件数、完了冊数、取消件数、取消冊数がそれぞれ出力できること。

## 7. IC タグ関連機器連携システム

7-1	IC タグでの蔵書管理、貸出管理ができるシステムパッケージであること。
7-2	IC リーダライタを接続して、IC タグの一括読み取りで、貸出・返却・所蔵変更・除籍等ができること。
7-3	自動貸出機との連携ができ、接続が容易であること。
7-4	IC タグ用セキュリティゲート及びゲート監視システムとの連携ができ、接続が容易であること。
7-5	自動返却機器との連携ができ、接続が容易であること。
7-6	IC 予約棚システムとの連携ができ、接続が容易できること。
7-7	IC タグ用蔵書点検機と（ノートパソコンとハンディターミナルを）接続して蔵書点検ができること。

7-8	貸出及び返却画面で IC タグ読込後、冊数確認画面が表示できること。確認後に貸出ができること。IC タグ読込は複数冊（10 冊程度）の同時読取処理が可能であること。
7-9	冊数確認画面では IC タグ読込の取り消しができること。
7-10	自動貸出機は、貸出・継続等の処理が利用者自身（セルフ）で行うことができること。また、複数冊同時の処理を可能とすること。（最大 10 冊まで）
7-11	自動貸出機で継続貸出（既貸出資料の貸出）した場合は回数制限なく貸出処理ができること。
7-12	自動貸出機の表示画面は、タッチパネル方式によって操作できること。
7-13	自動貸出機は、現行の利用者カード及びスマホ OPAC で表示される利用者コードのバーコード走査をすることで利用者認証を行うこと。利用者認証をした際に、画面上に利用者コードを表示できること。
7-14	自動貸出機で利用者カード読込み後、未登録、仮登録、ステータス、有効期限切れ、長期延滞、利用者通知メッセージのチェックをおこない、該当する場合はメッセージを表示できること。
7-15	自動貸出機で利用者カードをスキャンした際は、貸出の可否、返却日などを表示できること。また貸出資料については、その資料タイトルなどを表示できること。
7-16	自動貸出機で貸出処理する際は、未登録、仮登録、ステータス、当日貸出、持出禁止、雑誌最新号、冊数制限オーバー、他者予約確保資料のチェックおこない、該当するメッセージを表示できること。
7-17	自動貸出機の表示言語は、利用者が大人・こどもを選択できること。
7-18	自動貸出機で貸出・継続した際は、利用者が貸出処理を行った件数を含めた処理結果を確認できる機能を有すること。また処理結果と返却期限のレシートを打出すことができること。
7-19	自動貸出機で IC タグを読み込んだ際は、機関コード（自治体コード）の情報を判断して、他自治体や大学図書館の資料を区別できること。これらは貸出処理がされないこと。
7-20	予約棚コーナーにある自動貸出機の貸出は、予約資料を書誌単位で管理し貸出処理ができること。（複本がある場合は、どの資料コードでも貸出可能） その予約情報の消し込みもできること。
7-21	予約棚にない予約資料（視聴覚資料等）が用意出来ている場合は、自動貸出機でカウンターに案内するメッセージを表示できること。自動貸出機ごとに 表示する／しないの設定ができること。
7-22	予約棚コーナー以外の自動貸出機は、予約棚にある予約資料がある場合に予約棚へ案内するメッセージを表示できること。
7-23	セキュリティゲートで不正帯出を検出した場合は、ゲート監視用パソコンに持ち出し図書情報（書名または資料名）を表示できること。

7-24	IC タグ用蔵書点検機で連続して複数冊を読み取ると同時に、IC タグの AFI 値（ゲート通過許可の ON/OFF）の書込み処理が一括で更新できるように機器と連携できること。
7-25	IC タグ用蔵書点検機でスキャンしたデータの取り込みができること。テキストファイルのフォーマットは指定。
7-26	自動返却機と連携して利用者自身（セルフ）によって簡便にできること。返却処理は一次扱いとして予約資料は確保しないこと。
7-27	自動返却機で返却処理（一次返却）された資料は、OPAC に利用可能と表示されないこと。
7-28	自動返却機で IC タグを読み込んだ際は、自治体コードを判断して他自治体や大学図書館等の資料を区別することで返却処理を行わないこと。
7-29	毎分 5 分間隔で予約棚にある予約資料を読み取り、「UID+資料コード+棚番号」がデータ出力される。出力されたデータから予約棚番号をセットし、業務システム及び OPAC の利用状況（予約状況）で確認できるように設定できること。
7-30	予約棚に置かれた予約資料の読込状態を棚毎に確認できること。
7-31	予約確保された資料を判別し、予約棚へ置く資料は IC タグの読み込みまたは資料コードをバーコード走査することで予約棚用の盗難防止フラグへ変更できること。連続して IC タグを読み込むことができること。
7-32	予約確保された資料を判別し、予約棚へ置く資料は IC タグの読み込みまたは資料コードをバーコード走査することで予約棚番号をセットできること。連続して IC タグを読み込むことができること。
7-33	予約棚に置く予約確保資料以外（IC タグが読み込めない、配送中、貸出中資料等）をチェックするためのエラーリストを出力できること。
7-34	予約確認機で利用者カードのバーコードを読み込むことで、確保された予約資料のタイトル（巻号を含む）と棚番号でわかりやすく棚の場所を案内できること。また、予約確認機のレシートプリンタから予約案内票を印刷できること。
7-35	予約確認機の画面には、書名、巻号、資料コード、予約棚の配架場所等を表示し、利用者にわかりやすく案内できること。
7-36	予約確認機で予約棚にない予約資料（視聴覚資料等）が用意できている場合には、カウンターまで案内するメッセージが表示できること。
7-37	予約確認機で利用者カードを読み込んだ後に、未登録、仮登録、ステータス、有効期限切れ、利用者通知メッセージのチェックを行い、該当する場合には画面にメッセージを表示できること。
7-38	自動貸出機、自動返却機の利用人数や利用冊数の月次統計が端末毎に出力できること。
7-39	セキュリティゲートを通過した入館者統計が日別で出力できること。

## 8. セルフ座席管理システム

8-1	中央図書館の座席利用を利用者の属性（年齢、在住勤学等）に応じた条件で管理できること。 （読書席 64 席、社会人席 60 席、ビジネスルーム 17 席、調べもの PC 席 2 席、PC 持込席 18 席、シニアルーム 2 席、キャレル（ブラウジング）6 席、調べもの専用席 17 席をコーナーとして座席管理を行うもの）
8-2	座席管理の統計（利用状況等）を取ることができること。
8-3	座席の利用状況（空席有・残りわずか・満席等）を館内サイネージ、あるいはウェブ上で利用者に公開できること。
8-4	各コーナー毎に同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間を制限できること。最大数を超えた利用は、利用認証の際に判断し利用できない制御を行うこと。
8-5	各コーナーに設定した運用ルールの変更が必要になった場合等、利用回数・利用時間を図書館職員の設定変更により容易に対応できること。
8-6	ウェブ予約を実施する際には、利用者が館外の PC・スマートフォン等からインターネット経由で図書館ホームページに接続し、現時点の空席状況をリアルタイムに確認できる機能があること。
8-7	デジタルサイネージの表示の画面を Edge 等で用意できること。各座席毎に座席保有数・現在予約可能な座席数を表示できること。満席表示や現在予約可能な座席数がリアルタイムに更新されること。
8-8	図書館利用券の番号で利用認証を行い座席管理ができること。
8-9	図書館システムパッケージと連携するための標準接続インターフェースを保有していること。
8-10	利用者認証については、図書館システムパッケージの利用者データベースを参照して連携できること。
8-11	図書館利用券の番号の有効/無効を確認し、無効の場合は警告画面を表示して利用できない制御ができること。
8-12	図書館利用券の番号の二重登録を確認し、すでに同じ番号で利用中の場合には受付しない制御ができること。
8-13	各座席の座席利用状況のタイムスケジュールは、リアルタイムにデータが更新され、常に最新の状態が表示できること。他の予約端末や管理端末から予約を入れると、予約端末の利用状況もリアルタイムに書き換わること。
8-14	座席図から座席選択するための座席 MAP 作成ツールが用意されていること。
8-15	同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間を制限できること。 最大数を超えた利用は、利用認証の際に判断し利用できない制御を行うこと。
8-16	専用の座席予約端末にて、利用者自身が図書館利用券の番号を使った利用申し込みができること。専用の座席予約端末は、タッチパネル操作で誰でも簡単に操作できること。

8-17	図書館利用券の番号の読み込みは、バーコードリーダー、キーボード入力、タッチパネル画面のソフトウェアキーボード対応などができること。
8-18	予約端末の初期画面には、各コーナー毎に座席保有数・現在予約可能な座席数を表示すること。満席表示や現在予約可能な座席数がリアルタイムに更新されること。
8-19	座席予約端末にて図書館利用券の番号を入力し、【いつから】【どの座席を】【何分間】使うかを指定し座席を予約できること。
8-20	【いつから】【どの座席を】【何分間】の指定は、選択肢が一つしかない場合は表示させない設定ができること。
8-21	【いつから】利用者に開始時刻を設定させず、システムが自動で最短で利用できる時刻を設定する機能があること。
8-22	【どの座席を】利用者が選択する際に、座席番号で指定するだけではなく、座席MAPの席を直接タッチして指定する機能があること。
8-23	【どの座席を】使うかは、利用者が選択するのではなく、システムが自動設定する設定もできること。
8-24	座席利用の延長機能があること。座席の利用終了後に予約が入っていない場合に限り、予約端末で利用終了10分前から延長する機能も保有すること。延長は利用回数を1回としてカウントできること。予約利用して延長した場合、2回の利用となること。
8-25	座席予約端末に表示する画面は、背景を変更できること。但し、背景のデザイン作成等は含まない。
8-26	座席予約端末に表示する画面には、市より画像提供されたキャラクターなどを表示できること。
8-27	座席予約端末から「座席利用上の注意」画面を表示できること。
8-28	座席予約端末の待ち受け画面にて、対象コーナーが一覧表示できること。また、それぞれの座席の保有座席数、現時点での利用可否がリアルタイムに表示されること。
8-29	各コーナーの座席利用状況のタイムスケジュールが一覧表示できること。予約中、故障中、利用済みなどの状態が色識別でわかること。
8-30	各コーナーの座席利用状況のタイムスケジュールは、リアルタイムにデータが更新され、常に最新の状態が表示できること。他の予約端末や管理端末から予約を入れると、予約端末の利用状況もリアルタイムに書き換わること。
8-31	座席予約端末にて座席の空席状況・利用状況を時系列に確認できること。
8-32	座席予約端末にて、予約内容の修正・削除ができること。
8-33	座席予約端末から退席処理ができること。退席処理をすると、該当の座席は次の利用者に割り当て対象となること。
8-34	座席予約端末で予約した場合、予約票をレシート用紙に印刷できること。
8-35	座席予約端末は特定のボタン/キー操作しかできないように、セキュリティ対策がされていること。
8-36	管理端末では、図書館利用券が無くても、利用者の予約情報の確認、修正、削除、予約票レシートの再発行が容易にできること。
8-37	同一利用者の同日内の利用が、最大利用回数/最大利用時間を超過した場合も、管理端末からは制限を超えた特別予約ができること。 (例：「1日2回まで」の座席でも、職員判断で認めた場合は管理端末から3回目の予約を入れられること)

8-38	管理端末では利用者の代行予約ができること。
8-39	座席使用が不可の場合など、時間を特定して利用できない故障設定ができること。
8-40	同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間の制限設定は、管理端末から設定値を変更できること。
8-41	コーナー名称や座席名称は、管理端末から設定値を変更できること。
8-42	予約票レシートに図書館側が自由に使えるメッセージエリアを2つ用意し、メッセージ文言は管理端末から変更できること。
8-43	利用統計が出力できること。それぞれブース・座席ごとの利用回数・利用延べ時間、1日の時間帯別の利用回数・利用時間などの数値をCSV出力できること。又、期間設定することで、その期間の集計数値もCSV出力できること。 (※その他付加項目での集計は、別途お打合せの上決定とする。)
8-44	各コーナーごとに、曜日別の開閉館時間は初期設定できること。
8-45	職員がカレンダーから開閉館時間が変更になる日を事前に13カ月先まで設定しておくことができること。又、設定した内容は容易に確認できること。(例：コーナーAは、12月1日午前中だけ予約対象としないなど)
8-46	利用者が平等に利用できるよう、当日の予約は1つまでとすること。ウェブ予約の場合は、未来日にウェブ予約がある状態で当日に来館した際は、予約端末から1つまで予約ができること。
8-47	予約したPCは時間以外に「予約番号」を入力しても、ロック解除されない仕組みであること。
8-48	予約した時間のみ使用可能となり、モニタ画面内に残時間がカウントダウン表示できること。
8-49	終了時間数分前に終了をアナウンスするメッセージ画面を出力できること。
8-50	予約した時間が終了すると、強制的にシャットダウンできること。
8-51	再起動させる際に、ハードディスクを初期状態に戻したうえで、待ち受け画面に戻すことができること。

## 9. デジタルサイネージ

9-1	中央図書館内に配置した指定のデジタルサイネージのコンテンツ表示用のディスプレイを使って書庫出納完了の呼び出しができること。
9-2	上記の呼び出しは、レファレンスカウンター及びインフォメーションカウンター職員が簡単に行うことができ、また利用者に資料を渡した後は簡単に表示を消すことができること。
9-3	図書館からのお知らせをコンピュータの知識がない職員でも簡単に、中央図書館内にあるデジタルサイネージ表示用ディスプレイやOPACの画面上に表示することができ、内容変更が容易にできること。
9-4	コンテンツ表示枠を画面内に組み合わせてレイアウト配置することで、自由度の高い情報発信ができること。

9-5	コンテンツ表示枠の作成、編集、複製、削除が自由にできること。
9-6	コンテンツ表示枠はレイヤー方式を採用し、分割配置・重ね配置を自由に組み合わせできること。
9-7	コンテンツ表示枠は数の制限なく設置でき、レイヤーも同様に枚数制限無く重ねて配置できること。
9-8	背面にあるコンテンツも表示を継続し、手前のレイヤーが非表示・透明化された時に見えるようにできること。
9-9	コンテンツ表示枠と、表示データの設定をひとまとめにして1本の「シナリオ」として管理ができること。
9-10	シナリオは数の制限なく作成・保存して使い分けができること。
9-11	コンテンツ表示枠内に自由にアイコンボタンを設置できること。
9-12	設置アイコンが一定数を越えたときには自動的にスクロール形式で表示できること。
9-13	アイコン上に表示するテキスト文は文字数によってフォントサイズを自動的に最適化できること。
9-14	配置されたアイコンにタッチ又はマウスでクリックすると、そのボタンに対応したシーンがポップアップして表示できること。
9-15	アイコンボタンは階層管理でき、直感的な操作で展開できるフォルダ管理型のレイアウト構造となること。
9-16	一段深い階層を追加した場合には、作成したフォルダ名を引用したアイコンボタンが自動生成されること。
9-17	アイコンボタンのリンク先コンテンツを、管理画面上でドラッグ&ドロップ操作して簡単に紐付け設定できること。
9-18	予めタイムスケジュールを設定しておくことで、各ディスプレイごとの表示コンテンツを制御できること。
9-19	予め期間を指定して、表示するコンテンツを設定できること。
9-20	表示スケジュールは複数設定できること。
9-21	更新作業後のコンテンツはリアルタイムで自動反映するものとし、表示装置を停止せずに運用できる仕組みであること。
9-22	指定した月・日・時の時点での表示画面を確認できるように、リハーサル機能を備えること。
9-23	リハーサル画面ではボタンの操作、スケジュールによる各コンテンツの表示状態などを確認できること。
9-24	リハーサル画面において各表示を印刷できること。
9-25	リハーサル画面において各表示を画像ファイル化 (bmp、gif、jpg、png、tiff) できること。
9-26	リハーサル画面において各表示を動画ファイル化 (wmv、mpg、mp4、flv) できること。
9-27	画像系のデータは png、jpg、gif、tiff、bmp、pdf の各形式を表示できること。
9-28	動画系のデータは wmv、mpg、avi、mp4 の各形式を表示できること。
9-29	音声系のデータ mp3、wav、midi の各形式を再生できること。
9-30	一覧表形式のコンテンツは xlsx、csv の各形式を表示できること。
9-31	文字形式のコンテンツは txt 形式を表示、設定によりテロップとしても使用できること。

9-32	ブラウザ表示形式のコンテンツとして URL を指定することで、Web サイトを組合わせて表示できること。
9-33	各コンテンツ表示枠と各フォルダを紐付け管理し、そこにデータを出し入れするだけで誰でも簡単に表示内容をメンテナンスできること。
9-34	フォルダ内に複数コンテンツを保存することで、自動的にローテーション表示できること。
9-35	フォルダ内のコンテンツファイル名で表示期間を設定できること。（簡易スケジュール）
9-36	フォルダ内データの反映間隔（秒数）、ローテーション表示の表示時間（秒数）は容易に設定変更できること。
9-37	各コンテンツの表示順はファイル名の先頭に数字を振ることで誰でも簡単にメンテナンスできること。
9-38	表示の切替時にフェードアウト、縦・横回転、上下左右スライドアウト、消滅、ひし形、ワイプなどの画面効果を設定できること。
9-39	コンテンツ表示枠ごとに透明度やぼかし効果を設定することで、重ねて表示した際にも多様な表現ができること。
9-40	コンテンツ表示枠ごとに移動（直線運動、壁で反射、往復運動）表示を設定することで、多様な表現ができること。
9-41	コンテンツ表示枠ごとに拡大・縮小、および回転（回転運動、ふりこ運動）を設定することで、多様な表現ができること。
9-42	移動と拡大・縮小、および回転とを組み合わせると動かす設定もできること。
9-43	一定の再生時間を設定して、自動的に次コンテンツに切替できること。
9-44	配置したコンテンツ表示枠の中で最大表示、縦横比率維持表示を選択できること。
9-45	コンテンツ表示枠ごとに『文字サイズ最適化』『長体文字表示』『頭出し表示』から表示方式を選択できること。
9-46	コンテンツ表示枠ごとに文字方向（縦書き、横書き）、複数行、中央揃え、左右揃え、上下寄せ、および余白を設定できること。
9-47	コンテンツ表示枠ごと文字色、書体、飾り文字（斜体、太字、下線、取り消し線、シャドウ、輪郭）を設定できること。
9-48	予め設定しておいた領域にテロップを表示できること。
9-49	予め設定したテロップ用フォルダに、テキストファイルを配置/削除するだけで簡単に表示/非表示の制御ができること。
9-50	テロップの内容、文字色、フォント、流れる速度などは柔軟に変更できること。
9-51	複数のテロップメッセージを配置し、任意の順番で表示できること。
9-52	テロップの表示は画面上の既存コンテンツに重ねて配置できること。
9-53	テロップの表示は画面上の既存コンテンツに重ならないように画面全体を自動リサイズして割込み表示もできること。
9-54	催し一覧表には背景画像を設定でき、柔軟に画面デザインを変更したり使い分けることができること。
9-55	催し一覧の表示枠は、画面内の自由な位置にいくつでも配置することができ、用途・区分により使い分けて表示できること。
9-56	一覧表示において表示項目が一定数以下になった時点で、空きができた領域に任意のコンテンツを自動的に差換え表示できること。
9-57	催し物の情報は Excel（管理台帳）で一元管理し、担当者が Excel に必要情報を登録するだけで自動的に開催一覧に反映できること。
9-58	Excel（管理台帳）に順不同で登録した催しでも、自動的に開催日時順、場所順などの表示規則に基づいた順序で表示できること。

9-59	一覧で表示する行数や、最大表示の上限行数を設定できること。
9-60	複数の表示装置を使用する場合、装置ごとに表示する催し（日付、時間、場所、内容、主催者などをキーに抜粋）を制御できること。
9-61	Excel（管理台帳）の日付・時間に基づいて『当日分のみ表示』、『終了したら非表示化』など表示内容を自動制御できること。
9-62	Excel（管理台帳）のセルの内容を部分的に切り出して表示できること。
9-63	Excel（管理台帳）の複数セルに入力した情報を結合した体裁で表示できること。
9-64	Excel（管理台帳）の入力情報を一定の表示規則を定めておくことで、対応する文字色や背景色に変更して表示できること。
9-65	Excel（管理台帳）に入力された数値情報を表示規則に準じた符号に自動置換して表示できること。（例：残席無し→×、3席未満→△など）
9-66	時計の文字盤の形や色、文字のフォント、色などを変更できること。
9-67	館内案内表示のキャラクターや、各画面に表示される画像にランダム要素（出現率は任意設定）を盛り込めること。
9-68	ブラウザ表示形式のコンテンツを組み込んだ際に、許可サイト以外へ遷移できないように抑止する設定ができること。
9-69	予め設定した EXE ファイルの起動ボタンを組み込むことができること。（例：業務系システムや情報表示系アプリなど）
9-70	各種システム（施設予約、図書館、チケット販売）と連携し情報を加工、映像として表示できること。
9-71	図書館システムに新たに受入れされた資料を『新着一覧』として表示できること。
9-72	図書館システムの利用統計に基づいて『貸出ランキング』、『予約ランキング』として表示できること。
9-73	図書館システムに登録されたテーマ別検索の内容を『オススメ本』として表示できること。
9-74	図書館システムに登録された休館日情報を『休館日カレンダー』として表示できること。
9-75	分館の休館日情報も同時に『休館日カレンダー』に表示できること。
9-76	図書館システムとの連携は API 連携などを使用し自動更新する仕組みを提供できること。
9-77	外部サービスと連携することで資料の表紙写真、概要等を添えて表示できる仕組みを提供できること。（著作権を侵害しない仕組みであること）
9-78	各資料の表紙写真やタイトルをタッチすることで、詳細情報が載った画面へ遷移できること。
9-79	詳細情報は、資料のタイトル・表紙写真・著者・出版社・出版年・内容・QR コードを表示できること。
9-80	詳細画面の QR コードを利用し、スマートフォン等から該当資料の貸出画面に直接遷移する仕組みを提供できること。
9-81	URL 指定した、Web ページを表示する際に Javascript を実行するための、スクリプト設定欄が GUI 上に存在すること。
9-82	停電等の急な電源断により、ソフトウェアの構成ファイルが破損した際に、当該ファイルを自動で復旧できること。
9-83	所定階層にフォルダを作成すると、フォルダ名がメニューボタンとして自動生成され、そのボタンをタッチすると、当該フォルダ内のコンテンツを選択式に表示することが可能な機能を有すること。

9-84	サイネージシステムの管理画面や、コンテンツ登録作業を担当の表示装置ごとに適切な権限管理で運用できること。
9-85	ディスプレイごとに再生されている表示内容を、管理用端末から画面キャプチャーでリアルタイムに確認できること。
9-86	フォルダ内のコンテンツファイル名を変更するだけで下記スケジュール制御が標準機能のみで実装できること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像／動画の表示期間</li> <li>・画像／動画の表示が有効となる曜日や祝日の指定</li> </ul>
9-87	上記のファイル名によるスケジュール制御のほか、ファイル名により以下の個別設定がファイル毎に標準機能で指定できること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像ファイル毎の表示秒数</li> <li>・画像／動画ファイルの回転表示</li> <li>・動画ファイルの音量調整</li> </ul>

## 10. リクエスト

10-1	未所蔵、未発注の資料に対して利用者から購入依頼があった場合、リクエストとして管理できること。
10-2	利用者番号と資料を指定して処理できること。検索と連携できること。
10-3	リクエスト対象資料の目録データが登録されていない場合は、目録登録画面を呼び出して登録後、リクエストを継続できること。
10-4	リクエスト件数の上限は、利用者区分と資料の種別で管理できること。また、予約件数と合算した上限設定も可能なこと。
10-5	リクエストの冊数制限に達した場合は、メッセージやアラーム音で通知し、リクエストできないようにすること。ただし強制的なリクエストは可能なこと。
10-6	リクエスト日などでリクエストを抽出し、一覧を表示／印刷できること。
10-7	利用者がOPACで書名や著者名を入力してリクエストした場合は、入力された情報を元に資料を検索し、利用者が入力した情報を目録データと紐付けできること。
10-8	リクエスト一覧から選択し、発注や相互貸借依頼ができること。
10-9	リクエスト対象資料に発注や資料が登録された場合は、リクエストを予約として登録できること。
10-10	リクエストを受け付けた時に、リクエスト受付レシートが印刷できること。
10-11	リクエストを取り消した時に、リクエスト取消レシートが印刷できること。
10-12	WEBOPACで検索した結果、目的の資料が見つからなかった場合は、書名や著者・出版者などを入力してリクエストできること。
10-13	WEBOPACで利用者自身のリクエスト状況が参照できること。リクエストの取消ができること。

## 11. レファレンス

11-1	レファレンス記録を一元管理できる機能があり、全端末で情報を共有できること。
11-2	通常の本誌検索とレファレンス記録DBを横断して検索する可否（する／しない）が選択できること。
11-3	国立国会図書館のレファレンス協同データベースとの連携（データの供出）ができること。登録項目は、協同データベースのどの項目にあたるかを認識しながら、レファレンス記録が登録できるように、あらかじめ関連づけができること。
11-4	クイックレファレンスとして、以下の項目のみで簡易登録ができること。 ⇒受付日、受付館、担当者、質問内容（NDC、要旨）、資料名
11-5	レファレンス記録として登録した内容の変更が随時可能であること。
11-6	レファレンス記録として登録した内容がほぼすべての項目で検索できること。
11-7	レファレンスの質問内容、回答内容は、全文検索ができること。
11-8	レファレンス記録の検索結果一覧表示が1件1行で簡易表示できること。
11-9	レファレンス記録一覧は、行を選択することで詳細画面を開くことができること。
11-10	レファレンス1件ごとの詳細画面を「レファレンス記録票」として出力できること。
11-11	受付日、回答日の期間指定で、レファレンス事例を抽出できること。
11-12	キーワードや分類で、レファレンス事例を抽出できること。
11-13	事例集のレイアウトは、自由に変更できること。または文書ソフトに落とし込みができること。
11-14	レファレンスの基本的な統計がとれること。（館別、日単位／月計／年計）
11-15	完結したレファレンス記録は、公開フラグがあり、Web-OPAC等で随時公開ができること。
11-16	国立国会図書館のレファレンス協同データベースへ、蓄積したデータの供出が容易にできること。

## 2-パソコン・プリンタ機器類

項	貸借物件一覧の 表番号		2-1.2-2. 2-3.	2-4.2-5	2-6.	2-7.	2-8.	2-9.	2-10.	2-11.2- 12.	2-14.	2-18.	2-16.	2-17.	2-15.	2-19.	2-20.	2-21.
	機器名	設置場所	業務用デスク トップ	業務用ノー トパソコン	館内OPAC 用パソコン	WebOPAC 用パソコン	利用者用端 末デスク トップ	利用者用端 末ノートパ ソコン	座席予約用 パソコン	デジタルサ イネージ	バーコード タグ リーダー	レシートプ リンタ	モノクロ レーザ(A3) プリンタ	モノクロ レーザ(A4) プリンタ	カラーレー ザー	カラーイン クジェット	コインベン ダ複合機	ICリーダ ライタ
A	中央図書館																	
	1 電算室		1								1	1	1					
	2 荷解室		1	2							3	1	1					
	3 レファレンス		2					1		1	2	2						
	4 レファレンス横						2										1	
	5 記載台				2	5						7						
	6 シニアルーム																	
	7 レファレンス後			1							1	1			1			
	8 メインカウンター		4	1					1	4	4	4	1					
	9 事務室		11	3						14	14	4						2
	10 貸出作業室		2	2							4	4	1					
	11 図書館入り口								2		2	2						
	12 読書席																	
	13 絵画								2		2	2						
	14 ITブース(調べもの)						2											
	15 こどもカウンター		2	1						1	2	2						
	16 こども作業室		1	2							3	3	1					
	17 こどもOPAC				2							2						
	18 書庫(M2)		1								1	1						
	19 書庫(M3)																	
	計A		25	12	4	5	4	1	4	3	39	46	9		1		1	2
B	行徳図書館																	
	1 2F開架		2	1	1	1					3	5	1					
	2 3F開架		3	2	1	1	1				5	7				1		
	3 4F事務室		2	1							3	3	2					
	4 4F会議室			4							4	4						
	5 5F書庫			1							1	1						
	計B		7	9	2	2	1				16	20	3		0	1	0	
C	南行徳図書館																	
	1 1F開架		1		1						1	2						
	2 2F開架		1	1							2	2	1					
	計C		2	1	1						3	4	1					
D	信篤図書館																	
	1 1F開架		1	1	1						2	3						
	2 2F事務室		1								1	1	1					
	計D		2	1	1						3	4	1					
E	平田図書室																	
	1 2F		2	1	1						3	4	1					
	計E		2	1	1						3	4	1					
F	市川駅南口図書館																	
	1 開架		8	2	2	1		1			8	11	1	1				
	計F		8	2	2	1		1			8	11	1	1				
G	西部公民館図書室																	
	1 開架		2		1						2	3	1					
	計G		2		1						2	3	1					
H	大野公民館図書室																	
	1 開架		2			1					2	3	1					
	計H		2			1					2	3	1					
J	情報プラザ																	
	1 2F		1								1	1		1				
	計J		1								1	1		1				
K	塩焼市民図書室																	
	1 開架		1								1	1		1				
	計K		1								1	1		1				
L	福栄市民図書室																	
	1 開架		1								1	1		1				
	計L		1								1	1		1				
M	大柏市民図書室																	
	1 開架		1								1	1		1				
	計M		1								1	1		1				
N	喜谷公民館図書室																	
	1 開架		1								1	1		1				
	計N		1								1	1		1				
P	東部公民館図書室																	
	1 開架		1								1	1		1				
	計O		1								1	1		1				
R	千葉商大付属図書館																	
	1 開架		1								1	1						
	計P		1								1	1						
	総合計		57	26	12	9	5	2	4	3	83	102	18	7	1	1	1	2

※I (アイ)、O (オー)、Q (キュー) はそれぞれ数字の1、0、9と混同するため欠番

別紙4 館別用途別設置状況

3-ネットワーク機器関係

	賃貸借物件一覧の 表番号	3-1.	3-2.	3-3.	3-4.	3-5.	3-6.	3-7.
項	機器名 設置場所	ファイア ウォール	ファイアウォール用 SYSLOG	DMZ延長 ルータ	レイヤー3 スイッチ	レイヤー2 スイッチ①	レイヤー2 スイッチ②	8ポート スイッチン グハブ
A	中央図書館	2			1			17
B	行徳図書館					1	3	
C	南行徳図書館							
D	信篤図書館							2
E	平田図書室							
F	市川駅南口図書館							
G	西部公民館図書室							
H	大野公民館図書室							1
J	情報プラザ	1	1	2				
K	塩焼市民図書室							
L	福栄市民図書室							
M	大柏市民図書室							
N	曾谷公民館図書室							
P	東部公民館図書室							
R	千葉商大付属図書館							
	計	3	1	2	1	1	3	20

※I (アイ)、O (オー)、Q (キュー) はそれぞれ数字の1、0、9と混同するため欠番

## 暴力団等排除に係る契約解除に関する特約条項

(製造の請負、業務委託、賃貸借その他契約用)

(総則)

第1条 この特約は、この特約が付される契約（市川市財務規則（昭和60年規則第4号）第116条の規定により、契約書の作成を省略する契約を含む。以下「契約」という。）と一体をなす。

(暴力団等排除に係る解除)

第2条 市川市（以下「市」という。）は、契約の相手方が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

- (1) 役員等（個人である場合にはその者その他経営に実質的に関与している者を、受注者が法人である場合にはその役員、その支店又は営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者その他経営に実質的に関与している者を、受注者が法人以外の団体である場合には、代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）若しくは暴力団員等（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員及び暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者をいう。以下同じ。）であると認められるとき、又は暴力団若しくは暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められるとき。
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団等（暴力団及び暴力団員等並びに暴力団又は暴力団員等と密接な関係を有する者をいう。以下同じ。）を利用するなどしていると認められるとき。
- (3) 役員等が、暴力団等に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
- (4) 役員等が、暴力団等と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
- (5) 役員等が、暴力団、暴力団員等又は前4号のいずれかに該当する法人等（法人その他の団体又は個人をいい、市川市入札参加業者適格者名簿に登録されているか否かを問わない。）であることを知りながら、これを不当に利用するなどしていると認められるとき。
- (6) 下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方が前5号のいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
- (7) 契約の相手方が、第1号から第5号までのいずれかに該当する者を下請契約又は資材、原

材料の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）に、市が契約の相手方に対して当該契約の解除を求め、契約の相手方がこれに従わなかったとき。

- 2 契約の相手方が、協同組合又は共同企業体である場合における前項の規定については、その代表者又は構成員が同項各号のいずれかに該当した場合に適用するものとする。
- 3 契約の相手方は、前2項の規定により契約が解除された場合は、違約金として、契約金額又は賃借料（当該契約が地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の17に規定する条例で定める契約（以下この項において「長期継続契約」という。）である場合にあっては、契約期間中の各会計年度の支払予定額のうち最も高い額（以下この項において「最高支払予定額」という。））の100分の10に相当する額を市が指定する期限までに支払わなければならない。ただし、次の各号に掲げる契約の解除に係る当該違約金の額は、当該各号に定める額とする。
  - (1) 単位数当たりの契約金額又は賃借料を定めた単価契約 契約単価に契約期間内の予定数量を乗じて計算した額（当該契約が長期継続契約である場合にあっては、最高支払予定額）の100分の10に相当する額
  - (2) 月額による契約 月額に契約期間の月数（1月に満たない端数を生じたときは、これを1月とする。）を乗じて計算した額（当該契約が長期継続契約である場合にあっては、月額に12を乗じて計算した額）の100分の10に相当する額
- 4 契約を解除した場合において、契約保証金が納付されているときは、市は、当該保証金を前項の違約金に充当することができる。
- 5 第1項の規定により契約が解除された場合に伴う措置については、契約の規定による。

（関係機関への照会等）

第3条 市は、契約からの暴力団等の排除を目的として、必要と認める場合には、契約の相手方に対して、役員等についての名簿その他の必要な情報の提供を求めることができ、その情報を管轄の警察署に提供することで、契約の相手方が前条第1項各号に該当するか否かについて、照会できるものとする。

- 2 契約の相手方は、前項の規定により、市が警察署へ照会を行うことについて、承諾するものとする。

（契約の履行の妨害又は不当要求の際の措置）

第4条 契約の相手方は、自らが、又はこの契約の下請負若しくは受託をさせた者（この条において「下請事業者等」という。）が、暴力団等から契約の適正な履行の妨害又は不当要求を受

けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに市に報告するとともに、管轄の警察署に届け出なければならない。

2 契約の相手方及び下請事業者等は、前項の場合において、市及び管轄の警察署と協力して、契約の履行の妨害又は不当要求の排除対策を講じなければならない。

(遵守義務違反)

第5条 市は、契約の相手方が前条に違反した場合は、市川市建設工事等請負業者等競争参加資格停止基準の定めるところにより、競争参加資格停止の措置を行う。下請事業者等が報告を怠った場合も同様とする。

## 別記 1

### 個人情報取扱特記事項

#### (基本的事項)

第 1 条 貸貸人は、この契約による個人情報の取扱いに当たっては、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）を遵守し、個人の権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。

#### (個人情報の機密保持義務)

第 2 条 貸貸人は、この契約による事務に関して知ることのできた個人情報を他に漏らしてはならない。この契約終了後も、同様とする。

#### (受託目的以外の個人情報の利用の禁止)

第 3 条 貸貸人は、この契約による事務を処理するため、個人情報を収集し、又は利用するときは、事務の目的の範囲内で行うものとする。

#### (第三者への個人情報の提供の禁止)

第 4 条 貸貸人は、この契約による事務を処理するために収集し、又は作成した個人情報が記録された資料等を、貸借人の承諾なしに第三者に提供してはならない。

#### (再委託の禁止又は制限)

第 5 条 貸貸人は、この契約による事務を自ら処理するものとし、やむを得ず第三者に再委託するときは、必ず貸借人の承諾を得るものとする。

#### (適正管理)

第 6 条 貸貸人は、この契約による事務を処理するため貸借人から提供を受けた個人情報の滅失及び損傷の防止に努めるものとする。貸貸人自らが当該事務を処理するために収集した個人情報についても、同様とする。

#### (個人情報の複写又は複製の禁止)

第 7 条 貸貸人は、この契約による事務を処理するため貸借人から提供を受けた個人情報が記録された資料等を、貸借人の承諾なしに複写し、又は複製してはならない。

#### (個人情報の無断持ち出しの禁止)

第 8 条 貸貸人は、貸借人から提供を受けた個人情報が記録された資料等について、貸借人の承諾なしに、いかなる手段を用いても次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) この契約により指定された場所以外の場所に持ち出し、又は送付すること。
- (2) 電子メール、ファックスその他の電気通信（電気通信事業法第 2 条第 1 号に規定する電気通信をいう。）を利用して、この契約により指定された場所以外の場所に送信すること。

(事故発生時の報告義務)

第9条 貸貸人は、この契約の事務を処理するに当たり、個人情報記録された資料等の漏えい、滅失、その他の事故が発生したとき、又は発生する恐れがあることを知ったときは、速やかに賃借人に報告し、賃借人の指示に従うものとする。

(個人情報の返還又は抹消義務)

第10条 貸貸人がこの契約の事務を処理するために、賃借人から提供を受け、又は賃貸人自らが収集し、若しくは作成した個人情報記録された資料等は、契約期間の満了後直ちに賃借人に返還し、又は引き渡し、若しくは賃借人の指示に従い抹消するものとする。ただし、賃借人が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(賃貸人の事業所への立入検査に応じる義務)

第11条 賃借人は、必要があると認めるときは、この契約の事務に係る賃貸人の事務所に、随時に立ち入り、調査をおこない、又は賃貸人に参考となるべき報告若しくは資料の提出を求めることができる。

2 賃貸人は、前項の立入調査を拒み、妨げ、又は報告若しくは資料の提出を怠ってはならない。

(損害賠償義務)

第12条 賃貸人が故意又は過失により個人情報を漏えい等したときは、賃貸人はそれにより生じた損害を賠償しなければならない。

## 別記2

### 情報セキュリティ取扱特記事項

#### (基本的事項)

第1条 貸貸人は、この契約に基づく業務（以下「本件業務」という。）を履行するに当たっては、適正に情報セキュリティの管理を行う体制を整備し、情報セキュリティに関する適切な管理策を講じなければならない。

#### (定義)

第2条 この特記事項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 本件業務に関する情報 貸借人が本件業務を履行させるために貸貸人へ提供した情報（個人情報を含む）又は貸貸人が本件業務を履行するために収集し、若しくは作成した情報をいい、形状は問わず、複写複製も含むものをいう。
- (2) 情報セキュリティ 本件業務に関する情報を含む情報の機密性、完全性及び可用性を確保し、維持することにより、適切な利用環境を維持しながら、犯罪や災害等の各種脅威から情報を守ることをいう。
- (3) 機密性 情報へのアクセスが許可されない者は、情報にアクセスできないようにすることをいう。
- (4) 完全性 正確な情報及び正確な処理方法を確保することをいう。
- (5) 可用性 情報へのアクセスが許可されている者が必要なときに確実に利用できるようにすることをいう。
- (6) 情報システム 情報を適切に保存・管理・流通するための仕組みをいい、コンピュータとネットワーク及びそれを制御するソフトウェア、その運用体制までを含んだものをいう。
- (7) マルウェア 情報システムに対して攻撃をするソフトウェアをいう。
- (8) 情報セキュリティインシデント 情報セキュリティに関する事故・問題をいう。

#### (目的外利用の禁止)

第3条 貸貸人は、本件業務の履行に当たり、本件業務に関する情報を収集、作成又は利用するときは、本件業務の履行目的の範囲内で行うものとする。

2 貸貸人は、本件業務の履行に当たり貸借人に対し、当該情報にアクセスする者及びアクセス方法について明示し、貸借人の承認を得なければならない。

#### (第三者への提供の禁止)

第4条 貸貸人は、本件業務に関する情報を、貸借人の承諾なしに第三者に提供してはならない。

#### (再委託の禁止又は制限)

第5条 貸貸人は、本件業務を自ら履行するものとし、やむを得ず本件業務の一部を第三者に再委託するときは、再委託する業務範囲を明示したうえで、必ず貸借人の承諾を得るものとする。

2 貸貸人は、前項の規定により借借人の承諾を得て第三者に再委託する場合にあっては、再委託先に対し情報セキュリティに関して監督する責任を有することとし、再委託先の情報セキュリティの管理体制について借借人に報告しなければならない。

3 貸貸人は、借借人が前項の規定による報告によって再委託先の情報セキュリティの管理体制が不十分であることを理由として、再委託先の変更又は中止を求めた場合にあっては、再委託先の変更又は中止をしなければならない。

(適正管理)

第6条 貸貸人は、本件業務に関する情報の滅失及び損傷の防止に努めるものとする。

(複写又は複製の禁止)

第7条 貸貸人は、本件業務に関する情報を、借借人の承諾なしに複写し、又は複製してはならない。

(無断持ち出しの禁止)

第8条 貸貸人は、本件業務に関する情報について、借借人の承諾なしに、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) この契約により指定された作業場所以外の場所に持ち出し、又は送付すること。

(2) 電子メール、ファックスその他の電気通信（電気通信事業法第2条第1号に規定する電気通信をいう。）を利用して、この契約により指定された作業場所以外の場所に送信すること。

(情報セキュリティの維持、改善等)

第9条 貸貸人は、本件業務に関する情報及び情報システムの取扱いについて、機密性、完全性及び可用性を確保し、維持するために、次に掲げる管理策を講じなければならない。

(1) マルウェアに対するリスクを最小限にするために、情報システムに対しセキュリティソフトの導入を許容するとともに、その定義ファイルについても常に最新の状態に維持されることを阻害してはならない。

(2) 常に脆弱性等の情報を収集し、修正プログラムが公開された場合には、情報システムに対し対応策を講じなければならない。この場合において、貸貸人が開発し、又は開発させ借借人に納入している情報システムの改修が必要となるときは、借借人と対応策を協議するものとする。

(3) 本件業務に関する情報を含む情報の流出、改ざん、消失及び不正利用を防止するために必要な措置を講じなければならない。

(4) その他、情報セキュリティの維持のために必要と認められる場合、借借人と協議の上、対応策を講じなければならない。

2 貸貸人は、前項の規定により講じている管理策の内容を定期的に報告しなければならない。

3 貸貸人は、この特記事項に基づく報告、情報セキュリティの管理体制、実施事項に関する書類を整備しておかななければならない。

(情報セキュリティインシデントへの対応等)

第10条 本件業務に関し情報セキュリティインシデントが発生したときは、貸貸人は、直ちに、賃借人に報告するとともに、賃借人の指示に従い、その対応策を講じなければならない。

2 貸貸人は、前項の規定により対応策を講じたときは、その内容を賃借人に報告しなければならない。

3 賃借人は、本件業務に関する情報セキュリティインシデントが発生した場合であって、必要があると認めるときは、当該情報セキュリティインシデントの公表を行うことができる。

(情報セキュリティの管理体制)

第11条 貸貸人は、第1条に規定する情報セキュリティの管理体制の内容について賃借人と協議しなければならない。

2 前項の情報セキュリティの管理体制には、情報セキュリティ担当責任者及び担当者の職及び役割を明確にしておかなければならない。

3 貸貸人は、本件業務を担当する者に対して、情報セキュリティに関する教育及び情報セキュリティインシデントに対する訓練を実施するものとする。

(不要な情報の返却又は廃棄)

第12条 貸貸人は、本件業務に関する情報のうち、不要となったものについては、直ちに、返却又は復元できないような形で廃棄しなければならない。

2 貸貸人は、前項の規定により本件業務に関する不要な情報を廃棄したときは、書面をもって賃借人に報告するものとする。

(報告の徴収及び立入検査等)

第13条 賃借人は、情報セキュリティの維持・改善を図るため、貸貸人に対し、必要に応じて本件業務に係る情報セキュリティ対策について報告を求めることができる。

2 賃借人は、情報セキュリティの維持・改善を図るために必要な範囲において、指定した職員に、本件業務と係わりのある場所に立ち入り、貸貸人が講じた情報セキュリティ対策の実施状況について検査させ、若しくは関係者に質問させ、又はその情報セキュリティ対策が情報セキュリティの維持・改善を図るために有効なものであるか等について調査をさせることができる。

3 貸貸人は、賃借人から前項の規定による立入検査の申し入れがあった場合は、これに応じなければならない。

(損害賠償義務)

第14条 貸貸人は、貸貸人又は再委託先が本取扱特記事項に定める規程を遵守せず、情報を漏えい、滅失、毀損、不正使用その他の違反によって賃借人又は第三者に生じた一切の損害について、賠償の責めを負う。